

第 11 回 教 育 研 究 会

発 表 要 項 と 日 程

昭 和 35 年 6 月 3 . 4 日

金沢大学教育学部付属小学校

日 程

第1日 6月3日(金)

9:10	朝 の 会
9:15	学 習 公 開
10:00	
10:10	学 習 公 開
10:55	
11:15	あいさつ(学校長)
11:25	研究発表(富沢)
12:00	は 食
0:45	児 童 発 表
1:10	研究発表(上口)
	研究発表(荒間)
2:30	講演
3:30	小松 周吉先生

児童発表 かげ絵芝居
ふしぎな壺(演劇部)

第2日 6月4日(土)

9:10	朝 の 会
9:15	学 習 公 開
10:00	
10:20	児 童 発 表
10:40	研究発表(吉崎)
	研究発表(八十田)
12:00	昼 食
1:00	講演
	池島 信平先生
3:00	

児童発表 組み体操
春の遠足(体育部)

講 演

昔の学級と今の学級

金沢大学教育学部 小 松 周 吉 先生

ジャーナリズム雑感

文芸春秋編集局長 池 島 信 平 先生

研 究 発 表

自主的学習の反省と要求

教 頭 富 沢 友 治

国語科における練習の問題

教 諭 上 口 映 治

本校特殊学級における精神薄弱児の指導

教 諭 荒 間 八 郎

生活化をめざす家庭科学習の展開

教 諭 吉 崎 和 子

自主的学習と道徳の時間

教 諭 八 十 田 歳 雄

公開学習指導要項

	第 1 日				第 2 日			
	1 限		2 限		1 限			
	科目	題名	指導者	頁	科目	題目	指導者	頁
1の1	総 算	社 (洲崎)		7	総 算	算 (洲崎)		35
1の2	総 算	国 (上口)		8	総 算	国 (上口)		36
1の3	総 算	算 (高島)		9	総 算	工 (高島)		37
2の1	体 育	育 (石川)		10	算 数	数 (石川)		38
2の2	音 楽	楽 (川西)		11	社 会	会 (川西)		39
2の3	理 科	科 (太田)		12	理 科	科 (太田)		40
3の1	算 数	数 (宮崎)		13	理 科	科 (宮崎)		41
3の2	音 楽	楽 (浅井)		14	道 徳	徳 (架谷)		42
3の3	国 語	語 (吉崎)		15	体 育	育 (高田)		43
4の1	道 徳	徳 (八十田)		16	算 数	数 (堀内)		44
4の2	理 科	科 (齊田)		17	文 章	章 (齊田)		45
4の3	国 語	語 (神佐)		18	理 科	科 (丹羽)		46
5の1	社 会	会 (泉屋)		19	音 楽	楽 (八十田)		47
5の2	国 語	語 (深美)		20	家 庭	庭 (浅井)		48
5の3	算 数	数 (浅野)		21	体 育	育 (正元)		49
6の1	算 数	数 (正元)		22	国 工	工 (池田)		50
6の2	国 工	工 (池田)		23	道 徳	徳 (野村)		51
6の3	理 科	科 (林)		24	生 活	活 (伊藤)		52
特 殊 学 級	1	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	2	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	3	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	4	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	5	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	6	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	7	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	8	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	9	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	10	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	11	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	12	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	13	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	14	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	15	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	16	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	17	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	18	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	19	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	20	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	21	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	22	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	23	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	24	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	25	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	26	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	27	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	28	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	29	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	30	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	31	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	32	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	33	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	34	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	35	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	36	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	37	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	38	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	39	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	40	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	41	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	42	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	43	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	44	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	45	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	46	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	47	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	48	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	49	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	50	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	51	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	52	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	53	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	54	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	55	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55
	56	生 活	活 (伊藤)	52	生 活	活 (山本)		55

研 究 発 表

自主的学習の反省と要求

教 員 富 沢 友 治

1. 自主的学習のあゆみから

- ・研究主題をふりかえって
- ・育った子どもの姿
- ・本年度研究の志向するもの

2. 自主的学習への要求

- ・自主性と思考の問題
- ・自主性と意志の問題

国語科における練習の問題

教 員 上 口 映 治

1. 自主的学習と練習

2. 練習についての考え方

- ・三つの内容
- ・三つの原則

3. 練習の内容

4. 練習の実践例

- ・知識を主として
- ・能力を主として

5. 練習から気づいたこと

本校特殊学級における精神薄弱児の指導 教 諭 荒 間 八 郎

1. 特殊教育の現状
2. 特殊教育の意義
3. 指導の実態
4. 教育課程の編成
 - ・能力段階表
 - ・指導計画の立案
 - ・指導要録

生活化をめざす家庭科学習の展開 教 諭 吉 崎 和 子

1. 家庭科がねらうもの
2. 生活化しない要因は何か
 - 学習方法を中心として——
3. 生活化をめざす学習の基盤となるもの
 - ・学習過程を問題解決的に
 - ・興味をもたせながら
4. 学習展開のすがた
 - ・実習をふくむ学習
 - ・製作をふくむ学習
 - ・調査をふくむ学習

——系統性と内面性の問題——

1. 自主的学習との関係

問題をもつ

- ・内面化をすすめる

2. 系統性を考える

- ・カリキュラムへの反省
- ・実態にそくした道德性

3. 指導段階の予想

- ・ことのわけをわからせる
- ・ことのわけを考えさせる
- ・ことの関係を考えさせる

講 演

昔の学級と今の学級

金沢大学教育学部 小 松 周 吉 先 生

講 演

ジャーナリズム雑感

文芸春秋編集局長 池 島 信 平 先 生

1の1 第1日 社会科学習指導案 指導者 洲崎 明

単 元 がっこうのいきかえり

- 目 標
- 1 登下校のときの危険防止について考えさせ、じぶんたちを守るために周囲の人々が注意をはらっていることに気づかせる。
 - 2 じぶんたちの周囲には、いろいろな道路があり、また各種の乗物が走っていて、人や物を運ぶたいせつな役割を果している。
 - 3 身近な道路の位置関係、場所的相違、あるいは新旧の違いなど観察理解させ、空間や時間についての意識を育てる。

- 指 導 に あたって
- ・昨今の交通機関の発達のはめざましいものがある。新しい道路の建設も急がれてはいるが、多くは古い道路に急増された交通機関がひしめきあっているというのが現状である。こうした中を登下校している児童にとって、安全のための教育は是非ほどこされなければならない。
 - ・児童の過半数は、バス、電車を利用して登下校している。ラッシュ時の乗降車内での行動等についても指導しなければならない。
 - ・交通安全についてのきまり、信号、標識等については一応理解しているが、この学習を通して正しく実行されるように期待したい。
 - ・金沢の全地域から通学している児童にとって共通な経験領域を持たないのが指導上困難な点である。それで学校から最も近い道を選んで学習させ、発展のいとぐちとしたい。

計 画	一 次	がっこうのまわりのみち	3時
	二 次	いろいろなりもの	2時
	三 次	いろいろなきまり	2時
	四 次	りっぱないきかえり	3時
	五 次	まとめ	1時

本時の学習 一次の3時

主 眼 学校のまわりの四つの道をくらべて、交通機関の数や場所的な違いのあることを見つけ、それぞれ特長のあることに気づかせる。

準 備 教師 学校のまわりの道の地図 市街セット
児童 しらべの表

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学校のまわりの地図を見る	<ul style="list-style-type: none"> ・方位というよりは、教室からの関係位置からわかるようにしておきたい。 ・町名をつかわず、主な建物でその通りをわかるように話し合う。
2 自動車のかすを数える	<ul style="list-style-type: none"> ・児童たちがしらべた自動車の台数を発表させ、量的に大小がわかるように○の数で表わす。 ・第二日目の算数の学習指導と関連するように数の取扱いに考慮する。
3 自動車のほかの乗物について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・調査は四輪車を中心としたので、その他の交通機関、電車や自転車について発表させる。 ・調査の結果から、乗物の多い通り少い通りのあることに気づかせる。
4 学校のまわりの道をくらべてみる	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな角度から四つの道を比較させ、つぎの事柄がでるように誘導する。 広い道 せまい道 新しい道 古い道 安全な道 危険な道
5 次時の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・のりもののいろいろへ

1の2 第1日

国語科学習指導案

指導者 上口 映治

題材 わたしはすずめ(聞く、話すの練習を主として)

- 目標
- 1 正しい発音ができるように指導する。
 - 2 げきあそびを通して、くせやなまりの指導をする。
 - 3 話すことに喜んで参加するようにする。
 - 4 一つの話題からどんどん話が広がる楽しさを味わえるようにする。
 - 5 主述のはっきりした文が言えるように基礎を作る。

指導にあたって

- 聞くこと、話すことの練習をねらって、「わたしはすずめ」と「それからあそび」の二つを取り上げたのであるが、「わたしはすずめ」は動物のなき声のできるだけ正しく聞きとり、再現することから、口の動きと発音の練習を行うものである。

「それからあそび」は低学年の児童が喜んで話をするのをねらったものでゲームを通して、主述の整った文が言えるようにしたいと考えている。

- 低学年の児童は一語文が多い。「きのうはどこへ行きましたか」「こうえん」「だれに行きましたか」「おかあさんと」

つまり自分のことが主体になっていて、客観的に第三者のことを話すことは少ないのである。

しかし「それから」で話を続けさせると、喜んで話を続けていく。

- 正しい発音と基本話型を低学年から指導するということは大切なことであるが、どうかすると生のまま与えることになり、国語学習とは退屈なものであるという印象だけを与える結果になり易い。

そこで、ごっこあそびを中心に楽しい活動をさせたいと思っている。

計画 六月の聞く、話すの練習。

- 1 わたしはすずめ それからあそび……………2時
- 2 おおわらい はんたいことば……………2時
- 3 ことばのおけいこ……………3時

本時の学習 2時中の2時

主眼 ことばあそびによって正しい発音の練習をし、喜んで話すことから基本話型の初歩の指導をする。

準備 テープレコーダー 色カード 文字板 ボントン板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1わたしはすずめ 名前をつける 返事をする 野原へあそびにいく 友だちがよびあう	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな小鳥をとりあげて、口のあけ方、動かし方に気をつける ●児童の発音から、なまりやくせを指導する ●動作化はそれぞれの個性を生かすようにする
2それからあそび あそびかたを話す のりもので話をつづける 紅白にわかれてゲームをする	<ul style="list-style-type: none"> ●一つの話題からどんどん話が広がるようにし基本話型へと指導する ●赤、黄、緑の色カードをあげることから、他人の話をよく聞く態度をつける。 ●与えられた話題や文に対して、きちんと話がまとめられるようにする。
3ことばをつづける	

単元	おがわ
目標	1 19までの数を1つずつ数えられる。 2 具体的に手でふれたり、目でみただけで10から連絡的に数える。 3 19までの数字を読んだり、書いたりする。 4 10と、いち、さん等の唱え方の根拠をはっきりさせる。 5 深い、浅い、底等の用語を理解させる。
指導にあたって	● 児童たちは、実際ににおがわへ行って生きものをとってきたりする経験が少な いので、教室にいますかおの生きものを取扱って導入とし、興味をもたせた い。 ● 数を口で唱えることができても、実際のものをかぞえまわちがえる場合もある ので、物に即してかぞえられるようにしたい。 ● 一、二、三……十のかぞえ方と、ひとつ、ふたつ、みっつ……とおのか ぞえ方を関連的に理解させ、各数をつけずに概念的にかずを唱えることのな いようにしたい。 ● クルーズでのきょうそうは、班が6つあるので、各班から一名ずつ立たせ、 6人で行い、10から連絡的に数える練習は回数も多く行わせた。 ● 1から19までのよみかき、一つずつ、二つずつの数え方は、前時までに指導 し、本時は10から連絡的にかぞえる指導に重点をおきたい。

計画

一回 19までの具体物をかぞえる。 2時
 二回 19までの数字を読んだり書いたりする。 2時
 三回 具体物を10から連絡的にかぞえる。 1時

本時の学習 三次の一時

主眼 19までの数を10から連絡的にかぞえ、各数をつけて数がいえるようにする。
 準備 数図カード10〜19までのもの、ホントノ板、教科書、おはじき各目20個ずつ、
 学習問題のプリント、おがわの生きもの、たも、水槽等

学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ● おがわの生きものをかぞえる くふうをする 先生とかぞえる くふうしたことの発表 ● えをみてかぞえる ホントノ板のえ みんなであ かぞえるきょうそうをする ● 各数をつけて数えかく プリントのえを かぞえる 	<ul style="list-style-type: none"> ● はじめは遠くから見えて数えさせ はっきりし ない處からかぞえ方を考えさせる 色別 種あてを分けてかぞえる方法 こちやこちやしてわかりにくい時の方法 ● よい方法でいっしょにかぞえさせる 生きものをかぞえた経験を生かしているかみる 10のまとまりをわかりやすくする 各自よいと思う方法でかぞえさせる ● 10からかぞえる方法をわからせる 10、11、12のようにかぞえたせるかみる ● 数図カードのえを使う 各数をつけてかぞえているかみる ● 11から19までの数図をかぞえさせ 各数をつけて 数を書かせる

2の1 第1日 体育科学習指導案

指導者 石川 久子

単 元 投げ渡し順送球

- 目 標
- 1 ボールによくなれ、相手のとりやすい所にボールを投げ渡す事ができる。
 - 2 ボールをよく見ていて、それた場合は早く移動して捕えたり、からだ全体をじょうずに使いながら両手で捕える。
 - 3 きちんと列を作り、合図やきまりをまもって運動し、失敗した時その者を責めたりいじめたり、弱い者に乱暴をするようなことをしない。
 - 4 模倣性、創造性をいかしながら、思うままにあらわす力を養う。

- 指導にあたって
- ・模倣あそびやボールあそびは、どの児童もすきである。だれでもできるというやわらかい雰囲気の中で思う存分にあそばせながら、徐々に指導を重ねていきたい。
 - ・教室内の四人組をそのまま体育時にも活用し、グループでのあそびと協力的な態度を養うよう導きたい。
 - ・余暇を利用して、ボールに接する機会を、できるだけ多くしたい。

- 計 画
- ①まね鬼・投げ渡し順送球
 - ②場所とり鬼・花一文目
 - ③鉄棒・マット遊び
 - ④投げ渡し順送球
 - ⑤けん鬼、川とび
 - ⑥金太郎・徒手体操
 - ⑦棒登り・ゴムとび
 - ⑧投げ渡し順送球
 - ⑨マット遊び・棒登り

本時の学習 まね鬼・投げ渡し順送球

- 主 眼
- (1)簡単なルールをまもって、みんなが全力を出してゲームをする。
 - (2)ボールのうけわたしが、早くできる。
 - (3)リズムミカルな動きと、自由な模倣になれる。

準 備 レコード・ダン布林・ボール10 なわ10 黒板・ストップウォッチ

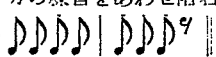
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 ものまねあそび	<ul style="list-style-type: none"> ・教師対児童の形から、グループごとに発展させる ・大きな動きや場の活用に注意
2 ボールおくり ・自分達で ・隣の班と ・移動する順送球	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごと（4人）で自由にパスをさせる（隊形は自由に） ・右図のように円をかき (1)隣にはやくボールを送る競争（一分間に何回） (2)かみなりあそびをする ・友だちとなかよくできる（協力） ・今の8人を下図のように位置づけることを話し 敏捷に正しく場所につけた班をほめる ・ボールをなげた後 自分もその位置へ移動して敏捷な動きになれさせる
3 のぞきっこ	<ul style="list-style-type: none"> ・レコードにあわせリズムミカルに班ごとにさせる（既習）
4 あとしまつと反省	<ul style="list-style-type: none"> ・用具のあとかたづけをさせた後 おもしろかったことやいけないと思ったことを反省させる

2の2 第1日 音楽科学習指導案

指導者 川西 和夫

教 材 シャボンだま

- 目 標
- 1 シャボンだまの心情をリズムにのせて楽しく歌う。
 - 2 絵譜を利用して階名唱の練習をする。
 - 3 ド・レ・ミの三つの音の階名位置を正しく理解させ、よんだりうたったり
かいたりすることができる。
 - 4 ハーモニカで演奏できる。

- 指 導 に あ た っ て
- ・児童の生活の中にある音楽を、日常の授業にどのように生かし、それがまた生活の中にどのように生かされているかということを考えてみると、低学年における生活教材を本当に身についたものに指導しなければならないと考えている。
 - ・レパートリーの一つにするため暗唱歌にするのはもちろんであるがハーモニカの練習をあわせ階名唱の指導に留意したい。
 - ・ のリズム型が反復されて構成されているので、このリズムを通して、リズム表現をいろいろと工夫させてみたい。
 - ・歌唱指導では、歌詞の内容を理解させ、その気持ちになりきって歌うようにしたい。
 - ・ハーモニカの指導は、まだはじめばかりであるが、知的理解よりも感覚的に音を把握するように留意しているが、自分の耳で自分の演奏している音を判断するようにしたい。
 - ・児童は音楽の学習をよろこんでしているが、この興味と態度をより一そう伸ばしていきたい。

- 計 画
- 一 次 歌詞の取り扱いと歌唱指導…………… 1時
 - 二 次 リズム練習と器楽指導…………… 2時
 - 三 次 体表現と鑑賞指導…………… 1時

本時の学習 二次の1時

主 眼 リズム打ちを中心として階名唱の練習をおこない一部分はハーモニカで演奏できるようにする。

準 備 リズム符、ハーモニカ、タンブリン。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 既習の曲をうたう さんぽ あめふり	<ul style="list-style-type: none"> ・発声は荒くなりがちなので、きれいな声でうたうように留意する ・発音をはっきりとうたわせる
2 シャボンだまのけいこをする <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞でうたう ・階名でうたう ・リズムを打ちをする <ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニカで練習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でうたったときの留意点を思い出させる ・階名は絵譜をみてうたわせるが、いつもみてばかりいないようにする。 ・やさしいものからむずかしいものへと、リズムカードなどを使用しながらリズムをうたわせる ・拍子を変えたり調子を変えたり強弱をつけたり速度を変えたりして興味を持たせる ・個人差は充分あるが、その能力に応じて曲の一部分から全体へと範囲をひろめていく ・穴をかぞえたりすることのないよう基になる音感をしっかり身につけさせる

2の3 第1日 理科学習指導案

指導者 太田 芳美

単 元 ゴムふうせんと空気

- 目 標
- 1 ゴムふうせんをふくらませたり、コップの中の空気を移動することなどにより、空気を知る。
 - 2 ゴムふうせんを使って、遊びを工夫する態度を身につける。
 - 3 空気の性質を利用したものをしらべることにより、空気のはたらきに関心を持つ。

指導にあたって

- 本単元は、目に見えない空気の実在を現象をとおしてつかみ、それがふうせんを飛ばす力や、舟を動かす力や、水中の手ごたえや、あわ、弾力などとしてのはたらきごとに、気づかせるところに指導の要点があると思われるので、事実とそれに関連した事実とを、はっきり関係的につかむように指導したい。
- ゴム風船の中の気体が空気であるか、息であるかは、おそらく問題になると思われるが、ここでは、こだわらないでおきたい。
- 空気を入れて使うものに、ゴム製品が多いが、ここでは、空気の弾力に重点をおき、ゴムの弾力については見つけたらかん単にふれたい。

計 画

一 次	ゴムふうせんと空気	3 時限 (本時は 2 時)
二 次	空気を利用したもの	1 時限

本時の学習 一次の二時限*

主 眼 ふくらませた風船の口を開いて放すと飛ぶことから、その原理を使って水中を進ませる遊び方を工夫し、風船をふくらませる程度やゴム風船の大小によって舟の進み方に違いのあることに気づく。

準 備 ● ゴム風船 ● 舟 ● ゴム輪 ● 吹き口 (竹) ● 大きな水槽

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習のめあてをつかむ	● 前時のふくらませたゴム風船の口を開いてはなすと飛ぶことを想起させることから、その原理を利用した遊びを工夫することへ導く
2 遊びを考える	● 水槽をおいてあることから、水の中を進ませる方法を考えさせる
3 考えた方法により、たのしく遊ぶ ふくらませた風船に吹き口をつけたまま進ませる ● 舟につけて、吹き口をつけた時とくらべてみる ● とりつけ方を考える ● 吹き口をつけた時とくらべる ● 風船の空気を水中へ出した時と、空気中へ出した時のやささをくらべる	● 風船の大小やふくらませ方によるちがいを見つけさせる ● 進んだ方向を飛ばした時と関係づけて見させる ● 舟の前に口を取りつけるか、後に取りつけるかを吹き口をつけた時から考えさせる ● 舟の抵抗を事実を通してわからせる ● 事実から水中へ出した場合に早いことをわからせる
4 舟が進んだわけを考える	● 風船の中の空気のはたらきであることを理解させる
5 次時のことについて話し合う	● ゴム風船の中の空気を目で見える方法について話し合わせる

3の1 第1日 算数科学習指導案 指導者 宮崎 甲

単 元 九九のつかいかた

- 目 標
- 1 かけ算、かけられる数について理解する。
 - 2 $(5 \times 7) + (2 \times 3)$ のような式の意味を理解して用いられるようにする。
 - 3 2のだん、5のだんの九九を理解し、これを用いていろいろな計算が能率的に処理できるようにする。
 - 4 0×2 , 2×0 , 2×1 などの意味を理解する。

指 導 に あたって

- ・児童は九九に興味を持っている。父兄の関心の高いせいもあるのか、学習をはじめる前から、九九を知っているものがある。
- ・九九を反射的に利用できるように、算数の学習時の前に練習させたい。またカードの利用などによって興味を持って自主的な学習を進めさせたい。
- ・九九を覚えさせるとともに、かけ算の式が成立するには、その背後にある事実と結んで理解をたしかにさせたい。これは九九の各だんの指導に合わせて反復して行い、九九のつかい方を順次高めていきたい。

- 計 画
- 一 次 たまひれのてんすう……………2時
 - 二 次 2のだんと5のだんの九九……………2時
 - 三 次 九九のつかいかた……………4時
 - 四 次 かけ算の式……………2時
 - 五 次 おけいこ、おさらい……………5時

本時の学習 五次の3時

主 眼 実際の生活場面やちょっと型の変った計算にも九九が使えということに着目させる。順序だてて考えさせ、考え方を式にあらわして計算することになれさせる。

準 備 さいころ 図形を書いた図

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 九九のれんしゅう	<ul style="list-style-type: none"> ・ならった九九をカードで練習させる となり合った組でたしかめさせる ・全体でけいこする フラッシュカードで答を出させてたしかめる
2 さいころで形を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・用意した図形を見せて、そのような形を作らせる さいころは、20個あたえておく 図形は二種類作らせる
3 形を見てさいころがいくついるか考える	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を見せてこの図形にはいくつのさいころが いるか考えさせる
4 数え方を考える 式	<ul style="list-style-type: none"> ・じょうずな計算のし方を考えさせる 自由に数えさせる 数え方を発表させて、式にあらわさせる $(5 \times 4) + (2 \times 4)$ のように ・知らない九九は同数累加し計算させる
5 九九を知っていると便利なことを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・九九を知っていると早く答が得られることを知 らせて次時の学習へ興味を起こさせる

3の2 第1日 音楽科学習指導案

指導者 浅井 弥生

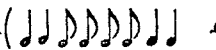
題材 しりとる歌

- 目標
- 1 遊びと関連をもったかいぎやく味のあふれた本曲の指導により、歌遊びの楽しさと陽気な感情や快活な心情を養う。
 - 2 ハ長調（34拍子）の視唱になれさせる。
 - 3 音の「しりとる遊び」によって、創作の喜びとその基礎的な力を培う。
 - 4 ハーモニカで楽しく吹けるようにさせる。

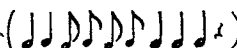
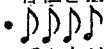

- 指導にあたって
- ・児童の最も親しみやすい本曲は、ハ長調（34拍子）の視唱教材として、また歌詞の面白さを通して快活な心情を培う上からも好教材と思う。
 - ・児童は歌うことが大好きであるが、発声が乱暴でどなる傾向がある。教師の範唱や柔かい無理のない声のだし方をしている児童の音色に感覚的に触れさせ、徐々によい頭声発声へと近けたい。
 - ・日常よく「しりとる遊び」を楽しんでいるが、本曲の指導により音の「しりとる遊び」をやらせて創造意欲を一層増し、それがまた日常生活へと自主的に生かすような態度にまで育てたい。
 - ・ハーモニカは全児童で一斉に吹くときれいにふけたように思われるが、個人的にやらせてみると吹けない児童もいるので、徹底的に全児童がやれるように指導したい。

- 計画
- 一 次 曲の概観と歌詞の取扱い。
 - 二 次 視唱練習とハーモニカ。
 - 三 次 音の「しりとる遊び」総括練習

本時の学習 第一時

- 主眼
- ・この曲を概観させて、リズム（)を体得させる。
 - ・歌詞をつけてうたえるようにする。

準備 本、ノート、ハーモニカ。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 既習曲の復習をする 山のうた ひばり	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、のびのびとうたっているか ・発声発音が乱暴にならないように ・アタックをそろえる ・めあてを知る
2 しりとる歌の練習 ・歌詞をよむ	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとりの意味を理解させ、面白さを味わわせる
<ul style="list-style-type: none"> ・リズム（)をとる ・視奏をきいてうたう きれいなうたい方 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に打たせ、リズム型が何回でてくるか各児にみつけさせる ・ゆっくりピアノをききながら 音程を正しくききとらせる ・のメを明確にを一語の感じて てんぐどの ワンワン ・同旋律は強弱を考えてうたわせる
フレーズ唱	
3 ハーモニカで吹く 春の小川 みなと	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニカの持ち方はよいか
4 本曲をもう一度きれいにうたう	<ul style="list-style-type: none"> ・口をしっかりとあけて歌詞をはっきりと ・次時の学習について

3の3 第1日 国語科学習指導案

指導者 吉崎 和子

題材 どうわを読もう（だまされたうさぎさん）

- 目標
- 1 童話を楽しんで読む態度を育てたい。
 - 2 文章の段落意識を高め筋を読みとらせたい。
 - 3 文の中の切れ目や、ことばのかかり方に注意させたい。
 - 4 読後の感想発表や、朗読の仕方に慣れさせたい。

指導にあたって

- 題材から、だまされたうさぎさんは、次のうさぎさんのさかなとりと二編一連の童話によって構成され、いずれもユーモアに富んだ興味深い題材であるので、読書意欲を高めるうえに有効であると思う。
- 学習から、中学年では物語を楽しむという低学年の取扱いから、一步進めて各段意をとらえさせ、物語の構成を知らせる事が加わらなければならないが本題材では、登場するものの行動を手がかりとして筋をつかませ、一つ一つの行動場面から段落意識を高めたいと考えている。と同時に、主人公の気持や行動に対する自分なりの意見を自由に発表させ、物語のおもしろさを十分味わうようにさせたい。
- 児童から、この学級の児童は「みつぎばなし」といって数人、組になり即興に童話をつくって話すことが、たいそう好きであるが、まとまった童話の本を読むということになると、読む者、読まない者の差がひどいようである。そこで、この学習を機会に童話の本に親しませ、いっそう明かるい豊かな人間性を培うようにしたい。

- 計画
- 一 次 読みの障害を除去し、感想を発表させる……………1時
 - 二 次 登場するものの行動から、話の筋を確かにし
内容を深く読みとる……………2時
 - 三 次 読後の感想発表と、漢字の書き方、ことばの
使い方をたしかにする……………1時

本時の学習 二次の1時

主眼 きつねとうさぎの行動を手がかりとして話の筋をつかむ。

準備 文字板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 きつねとうさぎとどちらが好きか話し合う	● 登場する主な者の行動を調べるきっかけをつくる
2 きつねとうさぎの行動の動きを見つめる 朗読 発表	● 各自、きつねとうさぎのどちらか、好きなほうを選ばせる ● 読むのを聞いて行動をあらわす箇所に線を引かせる ● きつねとうさぎに分けて文字板でまとめる
3 きつねとうさぎの行動を組み合わせて話の筋を考える 黙読 整理	● 時間や場所を考えて、きつねの行動の中にうさぎの行動を組み入れていく ● わからない所を黙読によってはっきりさせる ● 時間的に同じものをまとめさせる
4 文字板を手がかりにあらすじを話す	● 接続詞に注意させながら言わせる ● 文字板を、ところどころははずして、くりかえし話させたい
5 学習のまとめをする	● 文字板を見て、ノートに話の筋を簡条書きに書かせる

4の1 第1日 道徳学習指導案

指導者 八十田歳雄

主 題 そうじ

- 目 標
- 1 みんなが楽しく勉強したり遊んだりする場所なのだから、学校できめられた掃除場所は、責任をもって、まじめに掃除をする。
 - 2 掃除をするときは、わがままや、なまけなものがでないように、おたがい注意しあって仲よく掃除をする。
 - 3 はたらくことには、ものができあがっていく楽しみがあることを体験させはたらくことの尊さをすこしでもわからせたい。

- 指 導 に あたって
- ・4年生になると掃除にもなれてきて、どうかするとなまけやすくなるものである。それに掃除の配当場所もふえてくるので、教師が常に指導することが困難になってくる。したがって児童が自分たちの仲間として仕事をするのが主になり、リアルな児童の姿があらわれてくるものである。このような機会におこる問題場面をとりあげて、仲間の一人であるという意味で、問題を考えさせるには適当な主題であると思う。
 - ・本校の週徳目標の中に「はたらく子ども」という項目があるが、体をとおして、いわゆるはたらくということについては、積極的ではない。家庭環境から考えても、はたらくことにはなれていないし、はたらく楽しさがわかりにくい。その意味でもこのような主題をとおして、はたらくことについての理解と積極性を養いたいものである。
 - ・この学級には、いわゆる道徳的にみて問題児のすくない学級であり、わりあいおとない級風である。しかし言われたことをおぼろげよくやりとげたり、また問題に対して深く考えようとする態度に少しかけているようである。

- 計 画
- 一時 ちかごろの掃除について話し合う……………とまる
 - 二時 よみものをとおして考える……………おもう
 - 三時 自分たちの掃除を反省する……………あゆむ

本時の学習 二時

主 眼 読みもの「そうじ当番」をとおしてそれぞれの立場で考えてみる。

学 習 活 動	指 導 上 の 意 意 点
1 前時の話し合い……………とまる	・それぞれの言い分けをまとめるようにして結論的なことはさげ、問題をたかめる。
2 読みもの提示……………思う 自分たちの間でこのようなことがなかったか 自分はどう考えるか 帰れといった気持 帰ってしまった友達 一番良い方法はどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・関係したことでも類似のものを発表させる ・体表現によって情景を再現させて考えさせる ・仲よくということについて話し合わせる ・自分の責任を考えさせる ・仲間ということを意識させる
3 仲よくそうじをするには、どうしたらよいか……………あゆむ	・自分たちのそうじにあてはめてみる

4の2 第1日

理科学習指導案

指導者 齊田他喜雄

題材 物の浮き沈み

- 目標 1 同じ体積の水より軽いものは水の中に押し沈めても浮き上がり、水より重いものは沈むことを明確に理解させ、比べて調らくる態度・能力を養う。
- 2 水と食塩水では、浮かす方に違いのあることに気づかせ、浮き沈みの現象に興味を深めさせる。

- 指導にあたって
- ・四年生になって実験らしいものは、本単元が初めてであり興味はあるが、技能はそれに伴っていないようである。しかし、移行教材でもあるので試験的に取り上げてみた。
 - ・密度や比重を求める指導はここではおこなわないのであり、同じかさの重さで比較するようにする。
 - ・体積の求め方の指導もなされていないので、算数科とかねて不定形と同じ体積の水を取りだす方法も考えさせてみた。
 - ・上皿天秤ばかりの使い方・正味のだし方を、正しくできるようにしておく。
 - ・児童は浮くもの沈むものについて多くの経験をもっている。これらをふりかえりその間の矛盾をとり上げ、より高い概念でまとめ法則化していくのであるが、上から与えるのではなく児童自身の思考で解決していくようにしたい。

- 計画 一次 浮くもの沈むもの……………3時
- 二次 卵の浮き沈み……………2時

本時の学習 (一次中の1時)

- 主眼
- ・同じ体積でも物によって重さがちがうことに気づく。
 - ・同じ体積の水の重さより重いものは沈み、軽いものは浮くのではないかということに気づく。

準備 浮かせるもの(ろう・ねんど・石・木など)、水そう、天秤ばかり

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 浮くもの沈むものにどんなものがあるか話しあい、ねらいをつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・品物の名・質・形によって分ける ・形と質など矛盾する点から、浮くもの沈むものの分け方を見つけたす…目標を捉えさせる
2 いろいろな大きさのろうとねんどの浮き沈みの実験をする	<ul style="list-style-type: none"> ・用具をグループごとに順序よくとりにくる ・自由に浮かばせる ・大きくて重い ・かさがちがう ・重いと沈む ・何より重いものが沈むのか比較しているものをはっきりさせる ・手で重さをくらべる・天秤の左右をおきかえて比べるなど慎重さがみられないか ・同体積でも物によって重さがちがうことを本砂なども用いてたしかにする
<ul style="list-style-type: none"> ・ねんどが大きい時 ・ねんどがかるい時 ・同じ大きさの時 	
3 ろうが浮きねんどが沈むのはなぜか考える	<ul style="list-style-type: none"> ・何グラムより重いと沈むのか、何より重いと ・グループで考えをまとめさせる ・教師実験：水中に静かに浮き沈みするものと水の重さの関係をみさせる
4 後しまつと次時の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画をグループでたててくる

単 元 放 送

目 標 この文を読み、また放送をきいたりマイクに向ったりすることによって

- 1 ラジオ放送特有の表現形式を理解させる。
- 2 効果的な音読みができるようにその態度や方法を考える。
- 3 よいきき方について考えさせ、その態度を身につけるようにする。
- 4 メモをとりながらきき、メモから話をするができるようにする。
- 5 ききとった事柄について感想や意見を述べあう態度を養う。
- 6 放送がきこえるまでの手順をよみとる。

指 導 に
あ っ た っ て

- 四年生になって報道部員も選出し、また昼食時をはじめラジオ放送を利用する機会も多く、放送活動については今までよりも関心を深めている。

- 児童はまだ自己中心的傾向が強く、自己主張には積極的であるが他人の発言をよい態度できくという点に欠けているので、発言の場合は他の人にわかりやすいように心がけさせる一方、要点をつかんで静かなよい態度できくようにしむけていきたい。

- その時々々のニュースや物語りなどを材料にしてききながらメモをとらせ、またメモから話す指導も加えたい。

- 児童は一般に音読が稚拙なので、この点についても教室常備のラジオにマイクを接続したり、テープレコーダーを利用したりして興味を高めながら向上を図りたい。

- 一 次 放送について話し合い……………1時
- 二 次 放送をきく……………5時
- 三 次 放送がきこえるまで……………3時
- 四 次 放送の会をする……………1時

本時の学習 三次の1時

主 眼 題材が説明文であることを理解させ、どんな事柄について書かれているか読みとる。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 学習のめあてをつかむ</p> <p>2 放送がきこえるまでを読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音読、黙読 <p>3 書かれている事柄をしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どんな事とどんな事が書いてあるか ●どこからどこまでに書いてあるか ●ノートに書きとめる ●話しあってまとめる <p>●詩や物語文などちがった説明文であることを理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前次の学習の生かされた音読であるように ●どんな事柄について書いているか考えながら読ませる <ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて意味のわからないことばの説明を加える ●行が改まっても内容は変わらないこともあることに注意させる <ul style="list-style-type: none"> ●他の発言をよい態度できくようにさせる ●まとめた結果は自分でとったメモとは別にノートさせる <ul style="list-style-type: none"> ●説明文の構造などについては軽くふれるにとどめたい

5の1 第1日

社会科学習指導案

指導者 泉屋 清

単 元 わが国の農業

- 目 標**
- 1 米の生産が、わが国農業生産の根本になっていることについて理解を深め、わが国の農業が他国にみられない特色を持っていることを把握させる。
 - 2 農業生産を高めるための、農家の人々の苦心や生活、国の増産への努力に対して眼を開かせ、わが国農業の重要性をつかませ、食生活についての理解を深める。

- 指 導 に あたって**
- ・日本のどの府県でも農産物のうち、米が第一にあげられているということ、どこでも米が作られるということであり、それはまた、作らねばならないということでもある。
 - ・米がわが国農業生産の根本になっており、毎年の米や麦のとれ高の多少が国民生活に大きな影響を与えていることについての理解を深め、食生活について広い視野から認識させることは大切なことである。
 - ・児童は「日本には米が足りない」「農業は大切だ」と、かんたんにいい切ってしまう。米作を中心に、わが国の農業生産について、もっと深く考え、いろいろな角度から問題を考察するように配慮しなければならない。
 - ・そのためには、わが国農業の特色がつかめるような資料を準備し、それらを関連づけて指導していきたい。

- 計 画**
- 一 次 わたくしたちの食生活……………2時
 - 二 次 わが国の米と麦……………6時
 - 三 次 いろいろな農産物……………4時
 - 四 次 わが国農業の特色……………6時
 - 五 次 増産への努力……………4時
 - 六 次 農業のあゆみとまとめ……………4時

本時の学習 四次の2時

主 眼 わが国の農業生産の特色として、経営規模が小さく、集約的な農業であることを資料によって理解させる。

準 備 1haあたりのとれ高、農事ごよみなど。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習のめあてをはっきりする	・前時までの学習について簡単にふれ、その発展として、本時の学習目標をはっきりさせる
2 「農民一人あたりの耕地面積」をみて、気づいたことを話し合う	・外国名が出てくるから、地図帳の世界地図でみさせる ・わが国土の特色と関連づける
3 「1haあたりのとれ高」について話し合う	・2, 3の資料をわが国の農業生産の特色をつかむものになるものとする
4 なぜとれ高が多いのかを考える 農事ごよみやその他の資料をみる	・なぜとれ高が多いのかについて、十分考えさせたい ・農事ごよみや単位面積に使う肥料などの資料はプリントしておき、学習の発展をみはからって配布し考えさせたい
5 本時の学習をまとめる	

5の2 第1日

国語科学習指導案

指導者 深美 和夫

題 材 文字のいろいろ(漢字)

- 目 標
- 1 解説風の説明文を文法的に理解させるため、調べるために読み、味わって読むことができるようにする。
 - 2 漢字のでき方や構造を理解させる。
 - 3 漢字に音訓のあるわけを理解し、その識別にたれさせる。
 - 4 読みとったことを、わかるようにノートにきとめられるようにする。
 - 5 漢字の読み書きを正確に身につけようとする意欲を高めるようにする。

- 指 導 に あ た っ て
- 題材につき この題材は言語教科に属するものであり、内容が文字そのものの解説に限定されているところに特色とねらいがある。そして文字について発生や特徴を知らせ、文字に対する基礎的な知識を得させるとともに、さらに漢字の辞書のひきき方を学習せよとするものである。特にくわしく解説してあるのは、漢字そのものの複雑さにもよるが、この時期にこうした説明文を理解し、文字の発遣を認識させるのに有効であると思っている。
 - 学習につき 学習に対しては、基礎的な関係を持っている題材であるから具体的に実証的に学習させたい。ここで今まで学習してきた調べ方の視点をおもいださせ、よりよい方法で調べられないか考えさせたい。参考資料や実例を用い、単なる知識学習にとどまらないようにしたい。問題をグループや個人で協力研究し、細目もかねて学習を進めていきたい。
 - 児童につき 無意識のうちにすごしているものごとに対しても、深い興味や関心の目を向けるようになり、知識欲にもえてくる。国語生活に密着な関係をもつ題材であるから、児童に十分学習を通して自覚させたい。なお文字の発遣については、案外興味をもつと思うが、それだけ自主的な態度で研究していくという誤解作業をつづけるよう仕向けたいと思っている。

- 計 画
- 一 次 読みの障害を除去し、調べるためのノート作りをする……1時
 - 二 次 文章の構造や綴述を発表し、漢字の発生でき方、漢字の音訓よみについてまとめ、学習の結果を確かめる……2時
 - 三 次 発展として辞書で既習漢字のでき方、音訓を調べる……1時

本時の学習 二次の1時

主 眼 全体が二つに分けられている文章構造を理解し、漢字のでき方の説明を確かめ読みとらせたい。

準 備 辞書、参考資料、文字板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 まとめた結果を発表する グループや個人で発表、話し合 う	●研究ノートを調べて前時のつながりを確かめさ せる
2 文図で比較検討する い どのようにしてできたか わ まみ方には二とおりある	●漢字のでき方、音訓に関する部分を確かめる ●既習の調べ方の視点を思い出させ、もっとよい 調べる視点、方法がないか考えさせる
3 いの文図からどういうことが のべてあるのか、そのわけにつ いて話し合い、まとめる 調べてみる——参考資料利用	●漢字が作られたいろいろな方法を具体的に実証 的にみつけさせたい。 ●六評について知らせたい。
4 次時の学習について	●児童の調べ方を見通して、音訓よみがあること に気づかせたい。

題材 問題のとき方

- 目標
- 1 問題をよみとるときの一般的な順序を身につける。
 - 2 等号の意味について理解を深め、式の変形や等式の素地を養う
 - 3 問題類型に応じた図の作り方や利用のしかた作問の力を育てる。

指導にあたって

- 児童は図に対して、たとえば次の如き諸点での理解や能力が不足している。
①図の働きとその利用②問題類型に応じた図の選択とわかりよく表現する工夫③条件が複雑な場合の図の作り方④図ことば数量式とを対応してよむ…等
- 作問に関し本学年では次の如き内容を指導したい。用語式(二段階)図グラフ表、数学的内容(分数小数)演算(乗除法を含む)等をそれぞれ与えての作問。未知と既知の条件を入れかえたり、条件過多や不足を完備したりして文脈を再構成する作問。なお作問する時の旗として、ただ式を書かず式や公式を念頭において作問すること、多角的に数学の各領域と結んで作題していくこと……等を重視していきたい。

計画

一次 問題のよみかた(1時相当) 二次 式の使いかた(3時相当)
三次 図の作りかた(3時相当) 四次 作問(随時)
(計画は指導順に関係なく内容を示すだけ、扱いには必要に応じ相当時数指導)

本時の学習 図の作りかた 一三時の1時一

主眼 1 条件の複雑な問題は細部の図を作ってから組合わせておくことよいことを知る。

2 図の働きを知ったり図ことば数量式を対応してよんだり作問する力を養う

準備 テーパ 方眼紙 解答用紙

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 調べをもとにして問題を作る	●数量を与えての口頭作問とする
2 問題を解いてみる	●用紙の記入方法を指示する ●問題へのとりくみ方を提案する ●よみとり方・図の利用有無・解答の正誤
3 図の作り方を考える ●調べたことをみな図にかく ●かいた図をくみあわせる ●図にことばや数量を記入する ●図から式を考え出し答をだす	●各条件と対比しながら線別車にあらわす ●目で重ねられる所がないかをヒントとする ●図ことば数量式などをそれぞれ関連して扱い対応してよみとれるようにする ●立式の時限になった部分が「一」になることをのりしろ(植木算)の考えと結んで指導する ●答は図からもたしかめさせる ●図の作り方について主眼1をおさえる
4 図から別の問題を作ってみる	●図と場を与えての口頭作問とする ●文脈が同じで素材がちがう場合 ●既知と未知の条件をかえ文脈を再構成する場合
5 まとめをする	●図のはたらきについておさえる ●問題のしくみをわかりよくする ●ときかたをしらせる ●考えたすじ道の反省に利用できる ●新しい問題が作りだせる ●主眼1について今一度おさえる

単 元 割合の表わし方

- 目 標
- 1 われわれの日常生活に 割合がどのように使用されているかを理解し、割合を使って数理的合理的に生活問題を考え、処理していくような態度を養うようにしむけたい。
 - 2 割合は 整数、小数、分数、百分率、歩合 比などと多種多様に表わされておることを理解し、その生活問題への適用、能力を伸ばしたい。
 - 3 割合のいろいろな表わし方には どんな関係があるかを考えて、割合を計算し出す時、気怪に導き出せるようにする。
 - 4 $A \cdot B \cdot P \cdot X$ などの文字を使った公式に少し宛馴れさせ、数量的な問題の処理に有効に用いる能力を伸ばし、関係式を一般化するような考え方を助長して行くようにする。

- 指 導 に あたって
- 割合の意味をはっきりわからせ、比の表わし方や数量関係をスムーズに算出するためには、分数と小数の乗除が自由にできなければならない。
 - 前単元では 分数のかけ算わり算及び、小数のかけ算わり算を学習して来ているので、一応分数と小数のまじった計算でもできるようにになっている。
 - 比の三用法の中AのBに対する割合(P)は、 $A \div B$ で求められる。この第一用法直接導きだされるものと、第二用法の逆算で導くとよいものがあるが、本単元では第二用法の形式で、即ち $A = B \times P$ として立式させ、逆算で第一用法の形式に導くようにすることを主体として進める。

計 画	一 次 割合の使いみち	2時
	二 次 割合の表わし方	8時
	三 次 割合(比)の求め方	3時
	四 次 まとめと研究	3時

本時の学習 二次中の1時

主 眼 割合の表わし方が理解され、用法を使って気怪に解決する能力を伸ばす。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時のめあてを知る 既習の想起 割合の意味 割合の表わし方	<ul style="list-style-type: none"> • 割合の意味及び割合の表わし方がわかってるか • どんな割合の表わし方があったか 口答でいわせて考えなおしてみる <ul style="list-style-type: none"> • 欠席率 • 投票率 • 打撃率 • 正答率 • 利率 • 割引率 • 毀損率 • 毀滅率
2 割合を求めるには 比の第一用法 $P = A \div B$	<ul style="list-style-type: none"> • Aは割合に当たる量 • Bはもとにする量 • Pは割合 • …は…のである。…のである。 • 上記二通りの表わし方に留意してといてみる • 文章を文字に入れかえてみる
3 問題をといてみる	<ul style="list-style-type: none"> • 文脈を逆に使って発表できるだろうか • 特に能力の低い児童を中心に机間巡視をする
4 小数で表わされた割合を 百分率や歩合になおしてみる	<ul style="list-style-type: none"> • 相互関係が理解されているか • 百分率や歩合が間違いなく表わされているか • お互いにたしかめる
5 次時の予定	<ul style="list-style-type: none"> • たしかめや問題を自分で作ってみる

6の2 第1日

図画工作科学習指導案 指導者 池田 正義

題 材 未来の都市（紙構成）

- 目 標**
- 1 紙を主材料として、建築物を主題とした立体を構成し、ものを構成的にみたり、表現したりすることに関心を深める。
 - 2 紙を まげたり、折ったり切りこみを入れたりして、紙立体のおもしろさや可能性を追求させ、構成的な技能と立体感覚をそだてる。
 - 3 想像力ゆたかな創意を伸ばし、共同してものを作る喜びを味わせる。

- 指 導 に あたって**
- いろいろな建造物、とくに近代建築は多くの場合、単純な立体のくみあわせによる美しい表現物であることから、それを鑑賞したり、表現したりすることも意義があると思う。構成的な学習を通して、立体的な美しさに対する感覚を養いたい。
 - あまり現実的な建物の模型ということにこだわらないで、新しい形、気もちのよい形といったイメージゆたかなものにしたい。
 - 白い紙を数箇の平行線によって交互に折りまげると、各面は明暗によって変化にとんだ美的効果を作りだす。こうした折面を有効に生かしたしごにしたい。なお、強い接着剤を使用してのりしろは作らない。
 - 児童は、過去3、4、5年と紙構成の基本的な経験をもっているが、それを生かしてさらにゆたかな発想を伸ばしたい。

- 計 画**
- 一 次 紙のおもしろみをみつける……………1時
 - 二 次 計画をたて、製作にとりかかる……………1時
 - 三 次 各箇の製作と全体構成……………2時

本時の学習 一 第三次の1・2時—

主 眼 紙構成の可能性を追求させるとともに、共同でしごとを完成する態度を育てる

準 備 児童 白ケント紙、はさみ、小刀、接着剤、ものさし、コンパス
教師 補助材料としての ひご、針金など、裁断器、台板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時のしごとをたしかめ 計画を発表し合う	• どんなくみだてや 構造が可能かについて、よりくふうする観点を考えさせる
2 個人製作	<ul style="list-style-type: none"> • シンメトリックなものだけでなく、変化のあるくみあわせをくふうさせる • 折面は長さ、巾などに、ある一定のリズムをもった方が美しく感じられることに気づかせたい • 切断やきりこみには、用具を有効につかって、きちんとしたしごとをさせたい
3 グループで全体を構成する	• 建物の配置については、町の機能的な面だけにこだわらないで、構成的なおもしろさからも考えさせていきたい
4 付属建造物をくふうして作る	• ひご、針金などの補助材料を有効に使わせたい
5 批評、鑑賞	• ブラジリア市の写真をみせ話し合ってみたい

6の3 第1日

理科学習指導案

指導者 林 栄一

単 元 からだのはたらき

- 目 標
- 1 からだを動かしたり、模型などとしてみたりして、筋力や骨のしくみとはたらきを知る。
 - 2 食物は口、胃、腸を通る間に、消化吸収されることを知る。
 - 3 血液は、心臓から押し出され、血管を巡ってからだの各部に養分と酸素を送り、そこから不用なものを取り去ることを知る。
 - 4 肺は空気中から酸素を取り、二酸化炭素を出して血をきれいにするはたらきをすることを知る。
 - 5 尿や汗は、体内の不用になったものが体外に出されるものであることや、汗には体温を調節するはたらきのあることを知る。
 - 6 人体のつくりや、はたらきに興味をもち、自分の経験をもとにしてすしめちをたてて考え、健康についての関心をもつ。

- 指導にあたって
- 5年生までに、からだについていくつかの学習をつまかさねてきているが、本単元では、いままでの学習と関連づけ、からだそのものについての理解を深めようとするものである。
 - 児童たちが、身近かに経験していることをもとに、からだのしくみやはたらきを推論しやすいように具体的な事実の上になつて学習を進め、自律的に健康についての習慣を考えるようにしむけたい。

- 計 画
- 一 次 ほねときん肉のはたらき……………2時
 - 二 次 はいのはたらき……………2時
 - 三 次 心ぞうと血液のはたらき……………2時
 - 四 次 消化器のはたらき……………2時
 - 五 次 しようとあせのはたらき……………1時

本時の学習 二次の2時

主 眼 呼吸量をどのようにしてはかるかを問題として、普通呼吸、深呼吸のちがいを考え、はいのしくみやはたらきについて理解と関心を深める。

準 備 人体模型、水槽、一升びん、ヒニー（計）、肺活量計、ヒーカー

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習のねらいをつかむ	• 呼吸量のはかり方をしらべる
2 それぞれ考えてきた呼吸量のしらべ方について話し合う	• それぞれどんなはかり方を考えたか、そのはかり方でいかにどうかを話し合わせる
3 呼吸量をはかってみる	• 1升びんを使って呼吸量をはからせる
4 肺活量計をみてはかり方を知る	• 肺活量計を見せはかり方を知らせる
5 普通呼吸と深呼吸について考える	• なぜ深呼吸が必要であるかを考えさせる • 普通呼吸と深呼吸の呼吸量をくらべてみる
6 よい呼吸のしかたを話し合う	• 肺のはたらきをよい呼吸のしかたでまめとめさせる
7 次時の予告	

3の1 第1日 図工科学習指導案

指導者 高島千代子

単 元 おもしろいカベかざり

- 目 標
- 1 計金、毛糸、紙ひも、ビニールひもなどの材料になれさせる
 - 2 計金や色糸、ひもなどでかんたんな線構成の経験をさせ、線のおもしろいリズム感や配色のおもしろさを味わわせたい。

指導にあたって

- この学級の児童たちは空想性にとんでいるが、配色感覚や線の構成などの能力は充分とはいえない。

今までに行なったものは、配色の学習として「はたとふうせんのもよう」「すまたいおうち」などを学習した。

計金を扱うのははじめてであるが、材料に対しては充分興味をもって学習すると予想される。

- 材料は児童の手で自由にまげたり、くい切りやペンチで切れるので道具を扱う経験を併せて行い、ひも類は各自使えそうなものを何でもって来ることにした。
- 実際にカベにかけてみて、色糸のはり方をくふうしたり、はりなおしのできるので充分にくふうさせ、たのしくカベかざりをつくらせたい。

- 計 画
- 一 次 材料の準備……………(家庭で行う)
 - 二 次 つ く る……………2時
 - 三 次 かんしょうする……………

本時の学習 二次の2時

主 眼 計金をまげて作ったいろいろな形に、色糸やひもをはりわたして、おもしろいカベかざりをつくらせ、かんたんな線構成のおもしろさ味わわせる。

準 備 計金、毛糸、色ひも、色糸、ボタン

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> • 材料をしらべる 	<ul style="list-style-type: none"> • 三色以上の色糸をもっているかたりないものは分け合わせる
<ul style="list-style-type: none"> • そんなことに気をつけて糸をはるか話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> • ボタンなども使ってよい • 作品の写真や例などを示しておもしろいはり方になる条件を話し合わせる
<ul style="list-style-type: none"> • 糸をはる 	<ul style="list-style-type: none"> • 色やはり方は各自の好みでさせる • ひんとはれたかむすび方つぎ方に抵抗のあるものはないか注意する
<ul style="list-style-type: none"> • 友だちの作品をみる 	<ul style="list-style-type: none"> • おもしろい作品やくふうしたところをみつけさせさらにくふうさせる • しあげの要点について気付かせる
<ul style="list-style-type: none"> • あとしまつ 	

3の2 第1日

社会科学学習指導案

指導者 架谷 一男

単 元 片町通り

- 目 標
- 1 片町通りは、金沢においても、大きな商店の集まっている地域である。
 - 2 片町通りは、金沢においても交通の便のよい地域である。
 - 3 商店街は、地域的位置や交通条件と深い関連がある。
 - 4 商店街には、それぞれの特色があり、人々はその発展のために共同して新しい工夫を行っている。
 - 5 地図を利用する機会を多くし、それになれば、方位・記号等がわかる。

- 指 導 に あ た っ て
- ・3年生の学習領域は、金沢市や市民生活の特色を地域的、時間的にはあくさせることにあつて。本単元は商業地域としての片町地区をとらえ、市民生活とのつながりと、その立地条件を明らかにすることによって、その理解の一部を分担している。
 - ・本校児童は、金沢街市の各地から登校しており、日常経験によって金沢市のにぎやかな通りについての認識は豊富であり、特に片町通りについては共通経験がある。また前単元の金沢の電車、金沢の道路の学習における作図読図の経験が、本単元の学習を深めることになるとと思われる。
 - ・年間を通じて金沢の都市構造を、地域的に概観できるよう季節、学校からの距離を考慮して配当し、その機能を見学による事、他地域とくらべることを観点として指導したい。

- 計 画
- 一 次 にぎやかな片町通り見学……………1時
 - 二 次 片町通りの店を描く……………2時
 - 三 次 ま と め……………2時

本時の学習 ——三次の1時——

主 眼 片町通りの金沢市における生活的、交通的、地理的位置を理解させる。

準 備 市内電車系統図、市街区域図、片町通りの店の絵と地図

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時のしごと	・絵を見させることによって興味づける
2 どんな店があったか話し合う	自分たちの近所の店と比べて考えさせる
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな店 てっきん ・デパートの売場 ・いろいろな品物の店 	(店の構造・種類) ・近代化されてきていること ・デパートの売場の広さを、具体的にわからせる ・グループ作業をとり入れる
3 店に人が多く集まりやすくてきていることを発表する	前にべんきょうしたことでつながりのあることがないか考えさせる
<ul style="list-style-type: none"> ・電車どおり 多く通る電車(バス) 	(交通・地理的位置) ・既習の電車系統(図)を見させる 片町を通る電車の番号をあげ、その多いことをたしかめさせる
4 まとめ	
5 次時のしごとの話しをきく	

題 材 リレー 鉄棒

- 目 標
- 1 バトンタッチの要領について理解させる
 - 2 機敏な動作で要領よく折返しリレーができるようにする
 - 3 規則を守りグループでよく相談し協力して楽しくおこなう
 - 4 鉄棒運動をこわがらずにできるように導き，お互いに協力して進んで練習に励み初歩的技能をのぼす
 - 5 逆上り，前回り，足かけ振りをグループで規律正しく練習し，全員ができるように努力する

- 指 導 に あたって
- ・男女混合異質グループでリーダーを中心に一人一役を持ち，お互いにかばりあいグループ員相互の協力で目標達成に努めさせている。
 - ・バトンタッチについては特に方法を指示しないで，どうしたら上手にできるかを工夫し相談しあってグループで仲よく練習させたい，特に注意を要する点があれば助言する。
 - ・いずれも能力差がはっきり目立つ教材なので，お互いに協力して励まし注意しあいながら，初歩的技能が身につくようにする。
 - ・鉄棒運動では特に教科時だけでなく自由時における練習をも工夫させる。

- 計 画
- 一 次 リレー，前回り，足かけ振り……………2時
 - 二 次 バトンタッチ，折返しリレー，逆上り……………3時
 - 三 次 リレー（円形リレー折返しリレー）逆上り…2時

本時の学習 二次の1次

- 主 眼
- 機敏な動作で要領よく折返し，バトンタッチの要領を身につける。
 - お互いに協力する態度や勝敗に対する正しい態度を育てる。
 - 逆上りの要領を相互に研究し基礎的技能を身につけ友達演技をみて反省したり助言できる態度を育てる。

準 備 バトン，椅子

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 話し合い 本時のめあて 2 準備運動 3 逆上り（グループごと） 踏切，頸，腕，膝のひきあげ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに整列する ・本時のめあてをグループごとに確認する ・一斉指導でおこない個別矯正を加味する ・グループごとに足場の点検 ・リーダーを中心に補助のし方を研究する ・踏切頸腕のまげ膝のひきあげ等のタイミングを身につける ・友達の上手な演技や初めてできた者に賞讃を与え自分の演技も向上するように努める
4 バトンタッチ（グループごと） その場で，走りながら 5 折返しリレー 折返し 走りながらのバトンタッチ 反省	<ul style="list-style-type: none"> ・上手に受け渡しするにはどのようにすればよい ・か工夫し練習する ・しょうとつをさけるにはどうしたらよいか ・リーダーを中心にしっかり規則を守るように注意しあい走りながら上手にバトンタッチができるようにする ・折返し方を実際の場で練習し要領をつかむ ・各演技の技能態度についてお互いに反省させる ・気持よく譚子をあわせて行う ・次時のめあてと計画
6 整理運動 次時の予告	

4の1 第1日

算数科学習指導案

指導者 堀内 義雄

題 材 文章題の図解指導1 <同じものがいくつあるかのみ方>

- 目 標
- 1 文章題の図解指導のうち、書かれた図の中に、同じものがいくつあるかをみつけて、解決のいとうちをつかむ練習をする。
 - 2 上記練習によって、ある文章題の解決の法則性、一般性といったものを発見するまでにしたい。
 - 3 前記み方に「倍」の考えをとり入れて、図をみて未知の基準量がいくつ(何倍)あるかを知って、(全体量)÷(倍)=(基準量)といった整数倍による第三用法を導きたい。



- 指 導 に あたって
- 1 4年文章題の図解指導の初歩として、いわゆる和差算と称せられるもの、および同じみ方によって解決される分配算などを題材として選んだ。
予備テスト正解率、和差算(55%)分配算(10%)
 - 2 図解によって、あるみ方考え方を導き、究極において問題解決の一般化をねらうが、昔の和差算のような形式的な量にはめ込む指導は、これを避けたい。
 - 3 図解指導の図にも、学習の系統があると考えたい。基本から応用、応用1から2へと。このコースをスムーズにたどらせるために練習の必要があると思う。

- 計 画
- 一 次 整数の乗除についてのかんたんな文章題、中教本P73……1時
 - 二 次 「整数倍」を使った文章題をとく 全P73と補充……2時
 - 三 次 「和差算」と図解指導、その練習……2時
 - 四 次 「分配算」と図解指導、その練習、テスト……2時

本時の学習 四次の第1時

主 眼 和差算の基本図解を練習することによって、次の段階に位すると思われる分配算の図解を、どの程度に書き、理解して問題解決につらなるかを知りたい。

準 備 文章題を提示するための小黒板、フスマ紙

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 前に学んだことを反省する	<ul style="list-style-type: none"> • どんな問題について、どんな図をかき、どんなみ方をしたか
2 問題を読んで、といてみる	<ul style="list-style-type: none"> • 図解の研究を続けよう (予備テストの結果を知らせ激励する) • 問題提示のくふうをする • 個別指導する
よし子と弟の貯金高を合計すると、950円です。 よし子は弟の3倍より150円多く貯金しています。 2人の貯金高は、それぞれいくらですか。	<ul style="list-style-type: none"> • 読みについて(朱線) • 図を用いているか
自由にかく——板上発表 図解立式	<ul style="list-style-type: none"> • 方法の異なるもの解答の傾向などを知って、その代表を黒板上でさせる • 図、かき方の指導
3 研究する 説明する、意見を発表する 問題点について考える • 図、かき方、み方 • 立式	<p>よし子  150円</p> <p>弟 </p> <p>み方の指導 同じものが4つ、○が4つ</p> <p>950円</p>
4 • 倍の考え 練習する	<ul style="list-style-type: none"> • 倍の考えから立式へ
5 まとめる 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> • 問題の数値を変えて、練習してみる • 何が重要であったかについてまとめる

4の3 第1日

社会科学習指導案

指導者 泉屋 清

単 元 わたしたちの郷土

目 標 石川県に住むわたくしたちの生活は地勢、気候、産業や資源の分布のようすと、郷土の自然環境と深い関連をもって営まれていることを概観させ、より広い地域や、遠い地方とも密接な関係をもっていることを理解させるとともに、石川県の中での地域的な違い、他都市、他地方との関連対比をととして、石川県や金沢市の特色をつかませ、広い視野に立って郷土を見る眼を養う。

指導にあたって

- ・四年生になって、はじめて地図帳を持ったわけであるが、それらを考慮して地図のみ方を指導してきた。地図を見ること、簡単な地図をかくて、色をぬることには、大へん興味をもっている。しかし地図のみ方は、全く初歩的な分布のみ方である。
- ・地図指導での問題はいろいろとある。地図のみ方になれば、地理的なみ方、考え方を培っていくためには、郷土を中心として地図指導の上で工夫しなければならぬと思う。
- ・こうした点からいって、模写づくりは有効であった。模型を活用して、平面地図を併用させ、石川県の概観をつかませるようにすすめてきた。
- ・作地図については、分布的なみ方から、次第に関係的なみ方へ発展させていきたい。

計 画

一 次	石川県の地図や写真帳をみて話し合う	2時
二 次	石川県の地図をかく	2時
三 次	石川県の模写を作る	7時
四 次	金沢を中心として鉄道を調べる	2時
五 次	石川県や金沢市の物資の移出入について調べる	6時

本時の学習 四次の2時

主 眼 金沢市が県内の各地とむすばれていることを、旅客列車の人数や乗客数の資料をもとに調べる。

準 備 金沢駅の乗降人員調べ、列車時刻表

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習のめあてをつかむ	・ひとりひとりがめあてをつかむよう仕向けたい
2 七尾線の汽車の本数しらべをする	・上りをもとにしらべる
3 始発駅をしらべる みな同じでないわけを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・始発駅しらは、つねに地図からはなれないでみさせるようにしたい ・なるべく多くのものに、考えを発表させる
4 毎日動いているわけを考える	・もの動かなかったらを考えさせる
5 定期券で通っている人の多いことを知る	・級担任の先生も、その一人であることに気付かせる
6 金沢市の重要施設などについて話し合う	・県庁、大学、裁判所、放送局、病院、銀行、新聞社、県警などがあがると思う

5の1 第1日

理科学習指導案

指導者 丹羽 修平

単 元 魚の生活

- 目 標
- 1 魚のからだのつくりや、運動を観察し、水中の生活に適しているところの多いことを知る。
 - 2 池や小川の水を顕微鏡で観察し、水中には、ミジンコ、ゾウリムシ、ケイソウなどの小さな生物がすんでいることに気づかせ、魚の餌になることを知る。
 - 3 魚の種類や生活のしかたのちがいを調べ、池水や海水にすむもの、生育の時期によって場所を変えるもののあることを知る。
 - 4 メダカを飼育して、魚が卵から生まれて育っていくようすを観察し、魚の養育のしかたを知る。

- 指 導 に あ た っ て
- 本単元は移行教材であるため児童は教科書をもってこない。現教科書の単元「生物のつながり」の一連として取扱う。
 - 魚の内部のつくりを調べるため、魚の解剖を取扱うが、四年生でまだ二枚貝の解剖を実施していないので、解剖としては始めてである。
 - こうした学習は、ややもすると児童に精神的な動揺を与え、恐れったり残忍性を及ぼしたりすることがあるので、解剖の初歩としてあくまでも探究的な態度に重点をおいて指導したい。

- 計 画
- 一 次 魚の形と運動について観察する……………1時
 - 二 次 魚のからだのつくりを調べる……………2時
 - 三 次 魚の餌について調べる……………1時
 - 四 次 メダカを飼育する……………1時
 - 五 次 魚の卵と親について調べる……………1時

本時の学習 二次の2時

- 主 眼 魚の内部のつくりを解剖によって理解するとともに、解剖に必要な用具や解剖の初歩的な技能を身につける

準 備 フナ、解剖皿、解剖器、手ぬぐい

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 フナの解剖のしかたについて話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時に話し合ったことを想起させ、用具、材料、解剖順序などについて確かめる ◦ とくに魚を愛護する気持を失なわないように留意する
2 フナを解剖する	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 一人一人の仕事をはっきり分担させ責任をもった実習をさせるようにする ◦ 切り開く順序と、内部器官にきずをつけないように注意する
3 からだの中のものをつくりを観察する ・うきぶくろ、えら ・しんぞう、たんのう、すいぞう、かんぞう ・胃、腸、肛門	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 何がどのようになっているか、絵で記録しながら観察させる ◦ 内臓器官は教師の板書によって、確認させていく ◦ うきぶくろ、えら、鰓などを取り出して、水中ではたらきや運動との関係を考えさせる
4 各器官のはたらきと、運動との関係を考える	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ピン、ピンセット、ルーペーなどの取扱い方や用具のあとしまつに注意させる

5の2 第2日

音楽科学習指導案

指導者 八十田歳雄

題材 はだかの王様

- 目標
- 1 児童に親しまれている童話を主題にしたこの曲を表現することによって、音楽の楽しさを味わせたい。
 - 2 音楽の基礎技能としては、児童の発達に適している曲であるから、できるだけ自主的に学習させることにより創作の素地を養いたい。
 - 3 ニ短調の構成と視唱になれさせたい。

- 指導にあたって
- ・この曲はリズム、音程、旋律、形式など音楽の基礎的な要素からながめてむずかしいものではなく、5年生のこの時期の児童には自分の力で表現するいわゆる自主的学習には好適の教材だと思われる。できるだけ独力で視唱するよう指導をすすめていきたい。
 - ・音楽の自主的学習のおもしろみは自己表現の一つである創作にあると考える。本曲を統合的な取り扱いをすることによって、創作の表現意欲をたかめたいと考える。このような考え方の基礎をなすものは、リズム唱だと思う。この曲のリズムをとり出して、各自が自由なフレーズを表現することにより、創作の興味がわいてくると思うから、リズム唱を徹底させたい。
 - ・創作を中心にした統合学習のあり方をこの曲を通して、つきとめてみたい。統合学習の基礎は造詣にあると思う。造詣は曲の美しさ楽しさを感動をもって味わうことである。児童はやさしいこの曲を学習することによってスタイルは同じくても、へ長調とちがった感じをニ短調にもつであらう。この曲に対する第一印象から出発して創作的な意欲にまで音楽的要素の統合して学習をすすめたい。

- 計画
- 一 時 本曲の視唱、創作
 - 二、三時 歌詞の取扱い、ニ短調の理解、歌唱

本時の学習 一時

- 主眼 本曲の視唱をできるだけ独力で学習させ、その発展としてリズム唱を中心にした創作を指導したい。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 歌唱練習 たのしい小道 山の馬車	<ul style="list-style-type: none"> ・既習曲なので楽しくうたう ・発声がかたいたいで、やわらかくうたうよう
2 視唱練習 本曲の視唱をする 旋律型をさがす	<ul style="list-style-type: none"> ・階名読み→階名唱→リズム読み→リズム唱の過程をとる ・同じ旋律に注意する ・ひとりであうたうよう導く
3 創作練習 リズム唱をする フレーズうけつぎ フレーズの記譜 フレーズに歌詞をつける	<ul style="list-style-type: none"> ・本曲の中からリズム型をとりだして行う ・各自好きな旋律でうたわせるとき、ハーモニカなどの楽器の補助をさせてみる ・与えられたリズム唱を二人で交互にうけつぎの試合をさせてみる ・自分のフレーズをノートに記譜する ・自分のフレーズにすぎた歌詞をつける
4 歌唱練習 歌詞の取扱い 歌詞をつけてうたう	<ul style="list-style-type: none"> ・一番の歌詞をよむ ・はじめはゆっくり

5の3 第1日

家庭科学習指導案

指導者 浅井 弥生

題 材 よい身なり

- 目 標
- 1 よい身なりの意義と、身なりの整え方を知り、意心がけて実行するようになる。
 - 2 ボタン・スナップのよいつけ方を知り、自分でつけるようになる。
 - 3 衣服の簡単な手入れ、ブラッシュかけ、たたみ方を知り、できるようになる。
 - 4 ほころびのぬい方を知り、簡単なものはつくれるようになる。
 - 5 下着のえらび方について知り、もめんの下着をとり簡単な洗たくができるようになる。

指導にあたって

- 自分の身なりを整えるために、今まで家族の手をわずらわせていたが、五年生になり新しく家庭科学習をはじめ、自分でやらなければならないという自覚もでき、能力的にも無理がないと思われ、本題材を学習する意義がある。
- 新しく家庭科をまなぶ児童たちは、本教科独自の技能学習、特に針を持つことに興味が高い。そこで一層喜びを深めつつ楽しみながら徐々に針の扱いになれさせていきたい。そして簡単なほころびやボタンつけを進んで日常生活へ生かすようにさせたい。
- 具体的な日常生活の経験をもとにして学習をすすめる。その中に児童の必要感の上に立って、児童の創意工夫を尊重して、自主的学習するよう留意したい。

画 計

- 一 次 ふだんの衣服のしまつや手入れ……………2時
- 二 次 ボタン・スナップつけ……………2時
- 三 次 ほころびぬい……………2時
- 四 次 下着の選び方……………1時
- 五 次 かんたんな洗たく……………4時

本時の学習 二次の1時

- 主 眼
- ボタンを正しくつけられるようになる。
 - 針の扱い方になれる。

- 準 備
- ボタン 練習用布 縫縫箱 衣類(ボタンのとれている)……………児童
 - 大きなボタン 太めの糸と針 ボタンつけ拡大標本……………教師

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 各自の衣服を見ながらどんなボタンがどんな所についているか話し合う	<ul style="list-style-type: none"> • 身近かなものから問題意識を持たせるようにする • ボタンの種類や機能について知らせる • できるだけ実際のものを見させながら考えさせたい
2 ボタンをつける時に大切なことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> • 作業についての視点を持たせる • 標本を配布し、よく観察させる
3 ボタンづけを実習する <ul style="list-style-type: none"> • 工夫してつけてみる • むずかしかった点を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> • 自由につけさせてみる • 工夫してやっている児童はないか • お互に見せ合わせて評価させ、工夫点やむずかしかった点を発表させる • 児童の発見を尊重する
<ul style="list-style-type: none"> • 正しいつけ方をみる • 正しいつけ方でつけてみる 	<ul style="list-style-type: none"> • 拡大標本でわかりやすく示す(つけ場所や糸のはこび方まき方しまつの仕方) • 持ってきた衣類につけさせる
4 次時の学習について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> • スナップつけをする用意を知らせ後始末をさせる

6の1 第1日

体育科学習指導案

指導者 正元喜久男

単 元 ソフトボール（開脚とび）

- 目 標
- 1 グレープ毎に、ソフトボールの投げ方、守り方を工夫して、練習やゲームを自主的に計画することにより主体的な態度を養う
 - 2 送球、盗塁の時機及び守備している時、ゴロやフライを捕えて機敏な投球ができるように気をつける。
 - 3 器械運動中に開脚とびの技術を身につけ、美しいフォームにまで向上するように気をつけ合う。
 - 4 用具の取扱いになれるようにし、配置の場所、投球など一歩一歩使用のし方を考え、危険のないよう注意し合う。

- 指導にあたって
- 本単元は六月中の継続計画であるが、特に本時限は特設した題目で実施する。晴天時に外を使う学級があるため、屋内と限室あり、年間計画によらず開脚とびと立三段とびを選んで指導することにした。
 - 愈々梅雨期に入ったら、殆んど中に閉じこめられてしまうので、今のうちに、陸上系統の運動種目をうんと練習させ、旺盛な運動意欲を満足させたい。
 - 学級の男女を能力混合で4グループに分けてあるが、必要に応じて更にA・B二班に分けられるようになっており、各人一役ある責任のある係を受持っている。
 - グループ内での遅進児には、夫々手心を加えるような親心を持ち、教師と共に個別指導や、基礎練習の方法を考えてやるようにしむける。

- 計 画
- 一 次 はじめの指導 めあてとみとおし……………2時
 - 二 次 なかの指導 徒手体操 ソフトボール
模倣（リレー） 連続前回り
開脚とび リレー 立三段跳……………9時
 - 三 次 さいの指導 ソフトボール大会・記録会……………3時

本時の学習 開脚とびと立三段とび ——第二次中の4時——

- 主 眼
- 1 開脚とび（縦）のタミミグを身につけ、みんなて練習方法を工夫してよいフォームをよく見る。
 - 2 立三段跳の要領を会得し、記録を向上させよう努める。

準 備 とび箱 4 マット 8

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 準備運動 徒手体操（グループ毎）	<ul style="list-style-type: none"> ●形式的に流れず、本時の学習の準備として リーダーを中心に充分まげのほす ●身体各部をやわらかく、特に脚、手首の運動を入念に実施するようにする ●計画を確認して自分のめあてをもつ ●故障防止についても、ふれているかどうか ●低いとび箱で、とび乗らせながら、助走のタイミクをのみこませる（横三段） ●段々高度にしてお互いの助け合いがみられるか ●各人の能力に応じたとび方を工夫さす ●お互いのフォームを反省し合う ●両足をそろえて着地し、バネを利用する ●腕を大きく振って、上体が前傾しているか ●リズムに乗って調子よくとべるか ●記録を向上させよう、跳び方を工夫する ●グループ対抗の記録会について
2 2時のめあてをもち 騒ぐ走る	
3 開脚とびの送り	
<ul style="list-style-type: none"> ●なななな 高跳び ●短走とび 	
4 立三段跳 <ul style="list-style-type: none"> ●男5 m 50 ●女5 m 	
5 整理運動 反省	

題 材 おみまい

- 目 標
- 病気の友だちや、不幸にあった友人を見舞うということを通して友情の美しさを感じ得る。
 - 訪問時には、相手に不快の念を抱かせぬように礼儀作法を身につける。

指導にあたって

教材から ● 病気による欠席の多いこの時期に、友人の病気見舞を中心に友情の深まりを意図している。それから単に友人を見舞うだけではなく、その家族の病気や不幸に対してもあたたかい心遣いのできる態度を養いたい。

児童から ● 案外健康に恵まれている本学級の児童たちには長欠はないが、いまままでに友人の病床を見舞った経験のあるものがかなり多い。それだけに、学習中にはいろいろな問題が出てくるものと思う。

学習から ● 抽象的な観念的な取り扱いに終わりがちなこの種の学習を、できるだけドラマチックに扱って、ドラマ化の過程において必然的に発生して来た問題に指導の焦点を向けていきたいと思う。

- 計 画
- おみまいの意味と方法について話し合う……………1時
- 病室でのおみまいをドラマ化して行う……………1時

本時の学習 (第2時)

- 主 眼
- 病人に対する見舞のこころづかいや態度について考える
 - 付添いの父兄に対することづかいや態度について考える

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
● 本時のめあてをつかむ	● 前時の話し合いによる結果を確認して、本時は病室でのおみまいを実施して、実際の場において起こる問題を考え合うということをはっきりおさえさせたい。
● おみまいをドラマ化して行う	● ドラマチックプレーを行いつつ、左記の各項目を中心に取り扱っていきたい。
○ 病人のようすによって話題を選ぶ	● 即興的なドラマ化であるだけに、終始の一貫性を欠くことも多いと予想されるが、ドラマを中斷しつつ、その時その時の両者の心理状態や留意すべき点を取りあげて考えていきたい。
○ 話し声や態度に注意し 迷惑にならぬように留意する	● 指導者も、ドラマの中の一役を随時随所にかけて出て、要点を押えるとともに、児童たちのドラマ化に対する興味をもちあげていきたい。
○ 付添いの人々への作法にも気を付ける	
● ドラマ化のまとめをする	● ドラマ化によって種多なものの出てくる可能性も多いが、できるかぎりまとめて、おみまいについての児童たちの心構を整理してやりたい。

1の1 第2日

算数科学習指導案

指導者 洲崎 明

単 元 かぞえっこ

- 目 標
- 1 19までの数え方・数え方・数値の読み方・書き方についての理解を深める。
 - 2 19までの集合数・数系列を理解する。
 - 3 異体物について、いろいろな数え方になれる。
 - 4 動いて見えなくなる対象物について正しく数えたり、時間と共に消えてなくなる物を数えたり、不規則にならんだものを数えたりする。
 - 5 数えた物の処理の方法を考え、より正しい数え方になれる。

- 指 導 に あたって
- ・前単元では具体物と対応させながら、10までの数え方・数概念を指導してきたが、この理解の上に立ってさらに発展させ、あくまでも具体物を通して19まで数範囲を広めたい。
 - ・かぞえる指導は、とにかくいくつあるかということが間違わずにいえばよいと考えがちであるが、10といくつというふうには、10のかたまりと端数から構成されていることを十分指導し、数範囲が拡大されてもその数字の持つ意味、内容がわかるように指導したい。
 - ・具体物と対応させて指導するという立場から、全員に、さんすうのおけいことうぐ（計数器）を持たせている。これをいろいろな面から活用して指導したい。
 - ・一年生の生活の場には数えるということがたくさんある。本時は社会科の学習と関連させて、自動車の数え方をとりあげたい。

計 画	一 次 きょうそう	2 時
	二 次 まちのじとうし	3 時
	三 次 おがわのめだか	3 時
	四 次 すうし	3 時
	五 次 おけいこ	2 時

本時の学習 二次の二時

主 眼 19までの数を使って消えてなくなるものの数え方を工夫させ、それには10のかたまりと端数をつけはよいことに気づかせる。

準 備 フラッシュカード おけいことうぐ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 自動車の台数を数える	前日社会科で学習した自動車の数を○の数で表わしたものを読ませ導入する。
2 読みやすいように○のなるべし方を工夫する	10以上の数ではその数だけ○をならべるよりも、10のまとまりか5のまとまりをつけてその端数をつけておくと読みやすいことに気づかせる。
3 くふうをして自動車の台数を数える	かんたんな用具で、絵の自動車が現われたり消えたりするように工夫し読ませる。 現われた自動車を見て、おはじきをならべるか○を書いて最後に数をよませる。 おはじきは、赤10個・黄緑それぞれ5個ずつあるから読みやすいようにならべさせる。
4 フラッシュカードやカード取り遊びで練習する	児童のならばおはじきとフラッシュカードとを一致させて同じ数を表わしたものであることを理解させて練習する。
5 役しまつをする	児童の持っている数図カードなどを利用して、おもしろく遊べるように工夫する。

1の2 第2日

国語科学習指導案

指導者 上口 映治

題 材 どれでしょう・どのことでしょう(読む・書くの練習を主として)

- 目 標 1 この題材は文章読解の基本的なものであるから、文を読むこと、文を読んで考えることの指導に重点をおく。
- 2 基本的な文型の初歩である、何が何である、何がどうしたの型をした文に身につけさせ、読解・表現に役立てたい。
- 3 読むことの基本的な技能や態度を育て、特にクイズの指導によって、文の機能を明確にしたい。

- 指導にあたって
- クイズの条件を簡単に説明した文で、これを読んでとれかを決定するようになっている。事物の状態や性質を説明する形式をとっている。
文型としては、かおがあかい(何がどんなだ)の型・おんなのことす(何がどんなだ)の型・えほんをみます(何をどうする)の型であるが、これで文の基本的な構造「何がどんなだ」「何がどんなだ」「何がどうする」の型が出たことになり、こうした基本的な文型の練習によって正しい感覚を育てることが、表現にも読解にも役立つのである。
 - 児童は五十音の大半をすでに学習し、文字ことばもずっとその数を増し、もう短い文を読めるようになって来た。
また生活話型もかなり身につけて来たので、基本話型から基本文型への指導が望ましいと考えられる。
 - 学習では基本文型ということを表面に立てず、クイズ形式になっており、その内容も絵を見ることが中心になっている活動なので、児童にとっては抵抗も余りなく、興味的に展開されるものと思う。

- 計 画 一 次 どれでしょう……………2時
- 二 次 どのことでしょう……………3時

本時の学習 どれでしょう(一次の2時)

主 眼 クイズを作ることから文の読み方に習熟させ、さらに発展して文型の練習を行い、文の機能を明確にしたい。

準 備 ことばのなる木 めん(おもちゃ) 文型板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 文を読んで話し合う てんぐに決まること 前時のクイズを読む	<ul style="list-style-type: none"> 文字の読み方は、いろいろな文の中でたくさん読ませるようにする 大きな声ではっきり読むようにする
2 クイズを作る ことばのなる木のうた ことばのなる木に面をつけ る クイズを書く	<ul style="list-style-type: none"> ことばのなる木の利用によって平面的な国語学習の中の書く読む練習を立体的なものとする クイズを作るということから、文の書き方・文の読み方の練習をする
3 クイズを読んで考える	
4 文字・文の練習 かおが かおが あかい かおが あかい	<ul style="list-style-type: none"> 文型の練習は興味の少ないものであるから興味を高めることを考えとともに不自然や無理のかからないようにする

1の3 第1日

図工科学習指導案

指導者 高島千代子

単 元 大きなえをかきましよう。

- 目 標
1. みんなの、かんじたことを率直に表現する態度を養う。
 2. のびのびと大まかに描けたかな表現になれさせる。
 3. 実際の行動や、生きものをせわしたり、あそんだりした直接体験を通して、生き生きした感動をあらわす経験をます。

- 指導にあたって
- 低学年の描画では表現材料をクレヨン、ハス、えんぴつなどに固定するとちがった型通りの表現になりやすいので、大きな紙に黒鉛やえのぐも使ったのびのびと描く経験も与えたい。
新聞紙をながくつないで棒のほりの体験を描いたり、かけっこあとですぐに筆をもたせて、体験した感じや行動を、一年生なりに大きくのびのびと表現させたいと考えている。
 - 教室に、にわとりをはなして、みんなでいたり、えを与えたり、かけっこをしたりさせて、そのあとで、みんなの感じたにわとりを描かせてみたい。
果して感覚的、感動的な表現が生まれるか、また失敗に終わるかも知れないが、このような方法を時々行って、児童たちの素直な感情や感覚が表現されるようになったらと願っている。

- 計 画
- | | | |
|-----|----------|----|
| 一 次 | ぼうのほり | 1時 |
| 二 次 | どちらがかつか | 1時 |
| 三 次 | おがわの生きもの | 1時 |
| 四 次 | にわとり | 1時 |

本時の学習 四次 にわとり

主 眼 にわとりとあそんでから、各自の感じたままにのびのびと筆で描かせる

準 備 筆 黒鉛 ふすま用紙 赤・黄えのぐ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
• にわとりをみる	• わになってすわらせにわとりをわの中へいれる
• にわとりとあそぶ たいてみる えをやる はなしをする	• あそびたい児童をわの中へいれて、とりとあそばせる 想しみをもたせるようにしたい
• にわとりを描く	• とさか、あしなどにはえのぐをつけさせる 何枚でも描いてよい
• とんなことをしているか話合う	• 描かれたものをみせ、とうしているところか話し合わせる • あとしまつ

2の1 第2日

算数科学習指導案

指導者 石川 久子

単 元 ものさし

- 目 標 ものさしを使った学習を通し、つぎのことを身につける。
- cm, mmのよみ方や意味
 - 1cm=10mmの理解と単位の換算
 - ~cm~mmの複合数の表現
 - 量感, 計器尊重の考えや態度

- 指 導 に あたって
- 能力に応じて紙の補助ものさしを使用するが、これはよみの振読を除く教育的手段として使用するものであり、しだいに使用しなくてもすむようにしたいと考えている。
 - めもりよみの際、大きな単位に着目する指導を重視するが、この考えは既習の数のよみ方、時計のよみ方、グラフのよみ方と結んでいき、特別あたらしいものだという感じをおこさせないように指導したい。
 - 量感をつけさせることは大切であるが、これはびったりあてることが半限ではなく、どれだけあるかを予め考えてからたしかめてみるにすぎないのであるが、計器は量感をたしかめるもの——という立場で進めたいと考えている。
 - ものさしの端は、はかる物の端とそろえてはからねば正しくはかれない……という学習を通じ、尊重の態度を働かせたいと考えている。

- 計 画
- 一次 長さ比べとものさししらべ…1時
 - 二次 ものさしの使い方とよみ方…2時
 - 三次 よりこまかい長さのはかり方とよみ方…1時
 - 四次 しよずなよみ方…1時
 - 五次 れんしゅう…1時

本時の学習 しよずなよみ方

- 主 眼 めもりをよむ時には、まず大きな単位に目をつけて端からさなめもりをよんでいくのはよいことを指導し、あわせてこれらの基礎となるものさしの使い方とよみ方を、いっそうたしかにする。

準 備 紙ものさし(児童用, 教師用) 30cmものさし フリント マグネット黒板

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 フリントを使って線の長さを各自ではかる	<ul style="list-style-type: none"> • 指導の視点 <ul style="list-style-type: none"> ④ • ものさしのもち方と0点 ⑤ • めもりをよむ時の目の位置 ⑥ • 線が1, V, 一, の場合のあて方 • 能力に応じて補助ものさしを使って確かめさせる
2 はかった時のことをあらためてみる • 答えあわせをする • あて方はどうだったか • どんなよみ方をしたか	<ul style="list-style-type: none"> • 原因をはっきりさせる • 0点の確認 • 視線 • 斜線の場合のはかり方 • それぞれの考え方をきいて受けとめさせる
3 よりよいよみとり方をしる	<ul style="list-style-type: none"> • 5と10ごとに特別の印のついているのはめもりをよみやすくするためだという事をわからせる
4 (3)で勉強した事と似たことがどんな時に使われていたか	<ul style="list-style-type: none"> • 既習の数のよみ方 時計のよみ方 グラフのよみ方と結んで指導し やがてはかりやすさをよむ時へ展開することをわからせる
5 けいこする	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の示す長さを よりよいよみとり方の方法でよみとらせる
6 まとめ	

2の2 第2日

社会科学習指導案

指導者 川西 和夫

単 元 おいしゃさん

- 目 標 1 公衆衛生や保健のためにはたらいっている人たちの仕事やその苦勞を理解させそれらに感謝し協力する態度をやしなう
- 2 健康にくらすためには保健・衛生に注意することが必要であることをわからせ衛生を守るよい習慣をつけさせる。

- 指導にあたって
- 前学年の三学期にじょうぶなからだという単元で、校医さんや養護の先生自身自身の発育 衛生検査などに対する関心を持たせてきたわけであるが 本学年では さらに進んで多くの人たちが 自分たちの健康を守るためにつくしてしてくれることを理解させたい。
 - 梅雨の季節に入るときでもあり病気にかかりやすい点などから 今まで病気になった経験も多いわけであるが それらの経験を通して家の人や医師によって自分のからだが守られていることを理解させたい。
 - 保健所や病院で働いている人たちを通してそれらの様子やしぐみなどを理解させ感謝の気持ちを養いたい。
 - 病気にはいろいろなものがあるが 自分たちの経験を通して罹病の経路を知り、病気にかからないようにするにはどのように気をつけたらよいかを考えさせ紙芝居を作ったり作文をかいたりしながら衛生に対する考え方や予防に対する理解を深めさせ、日常生活の中によい習慣がつくられるよう留意したい。

- 計 画
- 一 次 身体検査を反省する……………2時
 - 二 次 病気にはどのようなものがあるか……………1時
 - 三 次 おいしゃさんはどのように働いているか……………2時
 - 四 次 病気をふせぐにはどうしたらよいか……………1時
 - 五 次 つゆどきにはどのような注意をしたらよいか……………1時
 - 六 次 整 理……………1時

本時の学習 一次の1時

主 眼 病気になったときの経験や学校における身体検査などを通して家族や先生によって自分のからだに常に守られていることに気づく。

準 備

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 病気やけかの経験を発表する	●病気になったときの経験を自由に話させる
2 学校では健康を守るためにどんなことをしているかはなしあう	●学校における病気やけかに話をまとめ保健室の使用度について話させる ●新学期がはじまってから保健室でいろいろな検査をうけていることに気づかせ それらをあげてみる ●検査のときのような気持ちや再聞させながら話あわせる
3 とどのような人たちにお世話になっているか考える	●測定関係と医師関係のあることを知る ●両親や先生・医師・養護教諭などの世話をいつもうけていること ●感謝の感情と同時に予防や衛生・医師のしことなどの学習への発展へ導く

2の3 第2日

理科学習指導案

指導者 太田 芳美

単 元 ゴムふうせんと空気

- 目 標
- 1 ゴム風船をふくらませたり、水の中の中の空気を移動することなどにより、空気の存在を知る。
 - 2 ゴム風船を使って遊びを工夫する態度を身につける。
 - 3 空気の性質を利用したものをしらべることにより、空気のよたよたに関心を持つ。

指導にあたって

- 本単元は、目に見えない空気の存在を現象をとおしてつかみ、それが風船を飛ばす力や、手を動かす力や、水中の手こたえや、あわ、弾力などとしてあらわることに関心させるところに、指導の要点があると思われるので、事実とそれに関連した事実とを、はつきり関係的につかむように、指導したいと思う。
- ゴム風船の中の気体が空気であるか、息であるかは、おそろしく問題になると思われるが、ここではこだわらないでおきたい。
- 空気を入れて使うものに、ゴム製品が多いが、ここでは、空気の弾力に重点をおき、ゴムの弾力については、見つけたら、かん単にふれる程度にとどめたい。

計 画

- 一 次 ゴムふうせんと空気……………3時限（本時は2時）
二 次 空気を利用したもの……………1時限

本時の学習 一次の三時限

主 眼

ふくらませたゴム風船を水の中で押さえると、風船の大きさによって手こたえがちがうことや、水中で風船の口を開くと、口の開き方によってあわの大きさがちがうことや、風船の大きさによってあわの出るいきおいがちがうことに気づく。

準 備

●ゴム風船・水槽・コップ・ぞうきん・日本手ぬぐい・アルコール

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 ゴム風船をふくらませる	● グレーン内で、大小ちがった風船をふくらませる
2 ゴム風船を水の中へ入れ、手こたえをみる	● 風船の大きさによる手こたえの程度に気づかせる
3 水中でゴム風船の口をあけてみる	● 全員に経験させる ● 口の開き方とあわの大きさの関係を見させる ● ゴム風船のふくらめ方や大きさによってあわの出るいきおいがちがうあることを見させる
4 コップを水の中へ入れて中の空気を入れかえる	● コップをさかさにして押さえると、手こたえが大きいことに気づかせる ● あらかじめ他のコップに水を入れて水槽の中におく
5 日本手ぬぐいで水中に人形をつくる	● 要領のわからないグループには指導する ● 人形ができたなら水中でつぶし、あわの出るのちに気づかせる
6 あわについて考える	● ゴム風船、コップ、日本手ぬぐいのあわはみんな同じものであることを知らせる
7 次時について話し合う	● 空気を利用したものへ関心を向けさせる

3の1 第2日 理科学習指導案

指導者 宮崎 甲

単 元 川原の石

- 目 標
- 1 川原のようすを観察して、川原には石の多い所、砂や粘土の多い所などがあることに気づく
 - 2 石を集め、形・色・大きさ・かたさなどいろいろあることに気づくとともに簡単な標本を作ることができる。

指 導 に
あ っ た っ て

この単元は1年「石ころあつめ」につづいて、「川の流れ」5年「地質とたいし岩」6年「火成岩のでき方」に続く学習で、3年生としては、川原や、そこにある石を調べさせ、川原や石についての興味を広げることが主なねらいとなっている。そのため川原の様子や石の分類も初歩的な観察を中心として、程度が高くならないように注意したい。

この期の児童は、12年の頃より一層観察力もするどくなり、理知的な働きが進み、比較観察などもうまくなるようになっている。日常何げなく見過している石に注意を向けさせ、初歩的な分類をさせることは発達の上にも適切であり、児童が一層環境に興味を持つようになるであろうと考えられる。

- 計 画
- 1 川原の観察の計画をたてる……………1時
 - 2 川原のようすを観察する……………2時
 - 3 採集して来た石を分類する……………2時

本時の学習 ——3の1——

主 眼 採集して来た石を、初歩的な分類のし方を考えて簡単な標本を作らせ、その作業を通してよりくわしく観察させ、興味と関心をもたせたい。

準 備 採集して来た石 標本を入れる箱(菓子箱)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 川原について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ● 川原で観察したようすを話し合わせる 川すじ・石の大小・砂の分布など ● 砂・石などの分布の理由については疑問のまま残すことにする
2 採集した石について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ● 採集して来た石を自由に整理させてみる グループ毎にさせる
3 整理のし方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ● 整理のし方を発表させ全体でまとめる 形・色・重さ・かたさ・てざわりなど
4 整理して分ける	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時は形と色について観察をさせる 形……まるい石・かどばった石・ひらたい 色……白・赤・黒・青…… 斑紋・つやなども考えさせる ● 変った石を箱に入れて標本にさせる ● 石にはいろいろ異ったものがあることを知らせる
5 夜始末と次時の話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ● 次時の予告

3の2 第2日

道徳学習指導案

指導者 架谷 一男

単 元 わすれもの

目 標

- 1 わすれものは 自分の学習や しごとの能率に大きな支えとなるばかりでなく ものをたいせつに使う上からも 大きなしょうがいとなる。
- 2 わすれものは 自分だけでなく 時には家の人や 友人にまで めいわくをかけることになる。
- 3 日常生活を計画的合理的に行うことのよさに気づかせ、わすれものをなくする方法をくふうする。
- 4 人の立場を理解し 思い心 思い心で 人のあやまちをゆるし 親切にしようとする。

指導に
あたって

- この主題は本校の努力目標のうち「物をたいせつに使うこと」「やさしい心のこども」「考えるこども」の3つを含んでいる。
- 児童は毎日だれかが 何かをわすれてくる。4月からわすれものをしよこどもは わずか数名にすぎない。
- 児童は学校へわすれものをしてくると 勉強がおくれる・先生にしかられるからよくないと考えている。わすれてきたときには 教師に報告しとなりの人にかしてもらうといい。となりの人がわすれものをしてきたときは 一言な気もち（かしてあげればならぬ）かするというのがいい。そうだとこのうにひびきしている。
- 以上はいずれも自己中心的立場にとどまり 他人にめいわくをかけているという意識が弱い。
- わすれものを学習にとりあげると しつけ的な学習に陥りやすいが、機械的な反復と 自己の決不快感の体験というものに止まらず、その他人への不快感とえいきょうを察し、それへの心情を暖めることが 内面化を目指す道徳の時間のありかたである。

計 画

- とまる……………実態調査……………1時
- 思 う……………わすれものをしてこまったこと
わすれものをしてきたときのみんなのきもち… } 1時
- あひむ……………どうしたらわすれものをなくすることができるか… 1時

本時の学習

主 眼 わすれものは自分だけでなく ほかの人にも いたなきもちをもたせることをわからせる。

準 備

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
と ま る	1 わすれものをしてこまったときの話しをする 2 学校ではわすれものをしてきたとき どうしているか話す	<ul style="list-style-type: none"> ●学校・家庭にあったことを ゆかいに ●物をたいせつに使うという点からも考えさせる ●先生・隣人はどうしてくれたかたずねる
思 う	3 わすれものをしてきたときのようすを表現する ●みんなのきもちを考え話し合う 4 わすれものをするとうけないわけをたしかめる	<ul style="list-style-type: none"> ●教師・隣人などをきめて興味深くさせる ●きもちを よくあらわしているか、どんなきもちなのかを みんなで話し合いながらなるべく回数を多くしたい ●他人のめいわくを理解できたか

4の1 第2日

体育科学習指導案

指導者 高田三七雄

題 材 ハンドベースボール

- 目 標
- 1 ハンドベースボールのゲームのし方を理解し それに必要な技能を身につけさせる。
 - 2 お互いに責任を果たしながら協力しあい 規則を守って公正に運動しようとする態度を養う。
 - 3 リーダーを中心に自分の役割をはっきりし自主的に学習を進めさせる。
 - 4 健康安全に留意して運動しようとする態度や能力を育てる。

指導にあたって

- ・野球型のゲームには興味を持ち意欲も旺盛であるが、技能やルール面で男女差が大きい。
- ・男女混合異質グループで リーダーを中心に一人一役の役割を持ち グループごとに練習法を工夫させゲームの進め方まで児童達でおこなえるようにさせたい。
- ・ゲームを通してまずい点の修練を部分練習のかたちで行い、おくれた児童には個別に指導していきたい。
- ・広い練習の場をとることができないのでお互いに協力しあい安全に注意させたい。

計 画

- 1 次 計画 ルールの研究 基礎練習……………2時
- 2 次 ゲームを通しての基礎練習……………3時
- 3 次 ハンドベースボール大会 反省……………1時

本時の学習 二次の2時

主 眼 ゲームを通して正しい投球捕球打法走塁の技能が身につく 球の処理をすばやくする判断力をねる。

・ルールを守って協力的にゲームを進めるようにする。

準 備 ホール 小黒板 はしはく

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 話し合い 本時のめあて	・本時のめあてをグループごとに確認する ・計画とコートを使い方を打合わせる
2 準備運動 徒手体操(グループごと)	・動作を大きくリズムカルにおこなわせる 特に腕 胸 脚の運動を十分に
3 キック子ボール	・正しい投球捕球ができるようにする ・相手の胸を目標に投球する ・ボールは常に体の正面で捕球する
4 投打捕の基礎練習	・良い球をえらんで打つ練習をするには ・思う所へ打てるように ・すばやく動作で処理し投捕を確実にさせる ・自己の守備範囲をしっかりと守らせる
5 ゲーム(ロングベース) 反 省	・基礎練習を十分活用してお互いに協力して楽しくおこなえるようにするには ・ボールに対する判断と走塁 ・めあてができるようになったか ・特に留意しなければならない点はどこか ・のびのびと大きく ・次時のめあてと計画
6 整理運動 次時の予告	

4の2 第2日

算数科学習指導案

指導者 齊田他喜雄

題 材 グラフづくり

- 目 標
- 1 大きな数を四捨五入・切り捨て・切り上げなどによって処理し、グラフなどに用いることができる。
 - 2 折れ線グラフの特徴・読み方・書き方の理解を深め、変化の方向や全体的な傾向を調らべる能力を伸ばす。
 - 3 定められた大きさの紙上に、棒グラフ・折れ線グラフをかきする。
 - 4 絵・棒・折れ線グラフの特徴を知り、目的に応じて使い分えられる。

指導にあたって

- ・社会科などで大きな数・表・グラフの読み書きの必要が頻りに出てきていいる。本単元でも、郷土しるしなどと関連して、グラフ指導の個々の目標を達成するとふさわしい資料をできるだけえらんで与え、能率的に進めたい。
- ・グラフ作成の段階においては、グラフ化しても価値のない資料、グラフ化しなくても十分役立てられるものをグラフ化したり、描くための手法、技術に重点がおかれて、でき上がったグラフの利用、元の資料の再現ができるかどうかの吟味が忘れられがちである。この点でも、資料の選択や指導にあたって十分注意していきたい。
- ・折れ線グラフについては三年生で一度扱っている。表の作成については本年では、まだ指導していない。
- ・練習段階の指導に入るまでにえた知識、技能を単に反復し固める練習に終ることなく、作業を通して見方考え方を発展させるように扱いたい。

計 画

- 一 次 表の読み・既数の取り方……………4時
- 二 次 いろいろなグラフづくり……………5時
- 三 次 まとめ・練習……………5時

本時の学習 れんしゅう（三次中の3時）

主 眼 折れ線グラフでは、時間的経過を示す目盛の時間の幅は等しく取ると、変化や傾向が読みとりやすいことを理解する。

準 備 県の人口うつり変わり表、同グラフ二種、グラフ用紙、マシリン

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 どんな点に注意してグラフを作ったらよいか話しあう	<ul style="list-style-type: none"> ・前分の続き・グラフ化するとき本問題を注意したい点表の年度が等期間をおいていないこと ・年は西暦年で
2 グラフをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフで既数・標題・単位など話しあって考えさせる ・机間巡視、目盛のとり方のちがいをしらべる ・線の傾斜に注目させる ・ねらい以外のものはできるだけスムーズに進められるように全体・個々に指導したい
3 グラフを見て気づいた点をまとめ発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で比較・語っている点がないか ・グラフから表にある年・区間内の年の人口増減の人口と傾向を捉えさせる ・教師グラフ（等間隔・不等間隔）をみせる
4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の幅を同じにするとグラフがよみやすい ・ちがった書き方などについても家で考えてみよう

4の3 第2日

音楽科学習指導案

指導者 神佐茂外吉

題材 茶つみ

目標

- 1 明るくのびやかな曲趣を味わせるとともに働く喜びを感じとらせる。
- 2 へ長調4分の4拍子の曲の視唱になれさせる。
- 3 一拍休符で始まる曲の演奏になれさせる。
- 4 簡単なリズム合奏を工夫させる。
- 5 簡単なリズムを記譜できるようにする。
- 6 レコードで合奏や合唱のおもしろさを鑑賞させる。

指導にあたって

- 昔から人々に親しまれている歌であり、児童も聞き覚えているものが多いと思われるので、単に歌唱だけに留めず、器楽、創作、鑑賞など、できるだけ多方面にわたる活動を取り入れて学習を深めてみたい。
- abcdの形式については譜面や演奏を通して同じ旋律に気づかせ、問と答のようになっていいることを理解させ、なおグループ別に演奏したり楽器配当をかたたりしていっそうよくわかるようにしたい。
- リズム合奏では結果そのものよりも児童に楽器の用い方を工夫させることに重点をおきたい。児童は今までにこのような学習をした経験がないので、その結果はごく単純なもののにしかならないであろうが、最初の取扱いなので大きな要求はしないことにしたい。
- 児童の作った合奏の効果をレコードのそれと比較させ、反省と向上の一助にするとともに細かいところに気をつけて鑑賞する態度をもつけるようにしたい。なお合奏と合唱の効果のちがいについてもききとらせたいと思う。

計画

歌唱（読譜活動を含め）……………1時
 リズム合奏創制と鑑賞……………2時


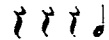
本時の学習 第二時

主眼 リズム合奏を工夫し、その効果とレコードの演奏をききくらべる。

準備 大太鼓1、タン布林2、ハンドカスタ2、トライアングル1

アコーディオン1、木琴1

レコード ビクターEC76 EC53

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 茶つみの歌唱 <ul style="list-style-type: none"> ●歌詞や階名で ●歌唱の形で 	<ul style="list-style-type: none"> ●abcdの形式を思い出させるように
2 楽器の加え方を考える <ul style="list-style-type: none"> ●大太鼓 ●タン布林やハンドカスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ●のびやかな曲なので忙しいリズムを使わない ●演奏効果をききながらきめていく
●打ち方を譜で書きあらわす	<p>  または  の程度にとどめる </p> <ul style="list-style-type: none"> ●記譜は楽器別に
3 できた編曲で演奏してみる	<ul style="list-style-type: none"> ●できれば同一旋律の所には同一楽器を配し、異った旋律のところでは楽器もかえるように示唆したい。
4 レコードをきく <ul style="list-style-type: none"> ●楽器の用い方などで気づいたことを話し合う ●合唱のレコードもきく 	<ul style="list-style-type: none"> ●なおした方が効果的な場合はなおしていく

5の1 第2日 理科学習指導案

指導者 丹羽 修平

単 元 魚の生活

- 目 標
- 1 魚のからだのつくりや、運動を観察し、水中の生活に適しているところの多いことを知る。
 - 2 池や小川の水を顕微鏡で観察し、水中には、ミジンコ、ゾウリムシ、ケムソウなどの小さな生物がすんでいることに気づかせ、魚の餌になることを知る。
 - 3 魚の種類や生活のしかたのちがいを調べ、池水や海水にすむもの、生育の時期によって場所を変えるもののあることを知る。
 - 4 メダカを飼育して、魚が卵から生まれて育っていくようすを観察し、魚の産卵のしかたを知る。

- 指 導 に あ た っ て
- 本単元は移行教材であるため児童は教科書をもっていない。現教科書の単元「生物のつながり」の一連として取扱う。
 - 五年生の児童には、プランクトンのような小さな生物は初めてであるので、こうした微生物の世界には驚異の目をみはると思う、この驚異を単なる驚きに終らせず、研究への意欲を高めたい。
 - 顕微鏡の取扱いは四年生で習っているものの習熟という点になると、まだ不十分であると思うのでこの点注意して指導したい。

- 計 画
- 一 次 魚の形と運動について観察する。……………1時
 - 二 次 魚のからだのつくりを調べる。……………2時
 - 三 次 魚の餌について調べる。……………1時
 - 四 次 メダカを飼育する。……………1時
 - 五 次 魚の卵と親について調べる。……………1時

本時の学習 三次の1時

- 主 眼 採集してきた池や小川の水を観察して、プランクトンの有無や種類を調べ、魚の食べものを理解するとともに、これを利用してメダカや小魚を飼育しようとする心構えを培う。

準 備 池や小川の水 シャーレー 浮びん スライド 虫めがね 顕微鏡 図鑑類

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 魚のたべものについて話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金魚の飼育などの経験を想起させる ○ 飼育の場合と自然の場合を比較して考えさせる
2 採集した水を虫めがねで観察する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 浮びんに水をとらせ、虫めがねで水中を泳ぐミジンコを見させる ○ 観察したものをスケッチさせる
3 顕微鏡でプランクトンをさがす	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図鑑類でプランクトンの名を調べてみる ○ スライドグラスを動かして見る要領をわからせる
4 プランクトンのちがいについて話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 虫めがね、顕微鏡、スケッチ、図鑑などを四人グループで協力して使用するように留意する
5 プランクトンでメダカを飼育する	<ul style="list-style-type: none"> ○ プランクトンの種類、プランクトンネットの使い方、採集時期や時刻、プランクトンの固定のしかたを理解させる ○ メダカの継続飼育をするようながす

5の2 第2日

国語科学習指導案

指導者 深美 和夫

題材 文字のいろいろ(漢字)

- 目標
- 1 解説風の説明文を実証的に理解させるため、調べるために読み、味わって読むことができるようにする。
 - 2 漢字のでき方や構造を理解させる。
 - 3 漢字に音訓のあるわけを理解し、その識別になれさせる。
 - 4 読みとったことを、わかるようにノートにまとめられるようにする。
 - 5 漢字の読み書きを正確に身につけようとする意欲を高めるようにする。

指導にあたって 前時の学習について

前時は、文章全体が二つにわけられているという事実を文図を中心としてまとめ、前半である漢字のでき方や構造を学習したわけであるが、本時は漢字に音訓のあるわけを理解し、その識別になれさせたい。

実際は入学以来音訓よみは学習してきたわけだが、数ある漢字の音訓を整理してみるのには、この機会に適していると考ええる。ただ整理といっても、あくまでも本文の読解をもとにして、字数を制限して児童の分別のできる程度のものをさせたいと考えている。

つまり、一音一訓ぐらいですむものが相当あるが、それらは音訓の整理を要しないものであり、整理を必要とするものは、多くの音訓を有するものである。例えば「生」という字は、今までの熟字訓を加えると165通りあったといわれるが、音訓表では「セ」「ショウ」「いきる」「うまれる」「き」「なま」の六つに整理されている。このようなことは、本文を通して学習するわけだが、直接日常生活に関係のある漢字(既習漢字)をみつけて音訓よみになれさせたい。

本時は、特に練習をとりあげて、具体的に調べ方ができるように参考資料などを活用して調べるさせたいと考えている。

- 計画
- 一 次 読みの障害を除去し、調べるためのノート作りをする……1時
 - 二 次 文章の構造や敘述を発表し、漢字の発生でき方、漢字の音訓よみについてまとめ、学習の結果を確かめる……2時
 - 三 次 発表として辞書で既習漢字のでき方、音訓を調べる……1時

本時の学習 二次の2時

主眼 漢字に音訓のあるわけを理解し、具体的に漢字をとらえ、実証的に学習し、その識別になれさせたい。

準備 音訓よみカード、辞書、参考資料、文字版

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 目あてをつかむ	・前時の話し合いを確かめさせる
2 きとめた文図で音訓のよみ方を確かめる	・もっとよいまとめ方がないから、視点を話し合い本文の説明内容を確認におさえさせる
3 資料をもとにして音訓を調べる フリント資料 図版 音訓よみカード	・どんな視点で調べ、音訓の区別をするよりよい方法を考えさせていきたい。 音訓よみカードで自分で考えさせる
4 まとめてみる	・調べてわかったことを確かにし、興味づけてみたい。
5 次時の予告	・漢字の発生、よみ方について説明し、興味をもってやれる方法をみつけさせたい。

5の3 第2日 算数科学習指導案

指導者 浅野 正

題 材 問題のときかた

- 目 標
- 1 問題をよみとるときの一般的な順序を身につける。
 - 2 等号の意味について理解を深め式の変形や等式の素地を養う。
 - 3 問題類型に応じた図の作り方や利用のしかた、作問の力を育てる。

指導にあたって

- 等号についての指導は四年生に属するが、児童の理解は等号は結果を示す記号、両辺の等値関係を示す記号といった程度に留まり、進んで「等号は両辺が内容的にも等しい事を示す」ということにまでは及んでいない。これでは等号を用いて式を順次簡略に表わしていくこと。括弧や四則に関する計算の順序にしたがって、式を順次変形していく、数の大きさや計算規則を用いて式の構成をかえ手ぎわよく計算する（四年内容）こと等を一層伸ばす五年生での学習にさしつかえる。これが本時設定の理由である。
- 等号の指導については、今後立式の意義、式の変形、公式の理解と活用の過程、総合式を作る過程、括弧の用法や計算順序の指導等を通して積極的に指導したいと考えている。なお、等号は特定数値の時のみに成立する方程式的な意味をもつ場合、どんな数値でも成立する恒等式的な意味をもつ場合のあることも、指導者としては心に留めておきたいと思っている。

計 画

一次 問題のよみかた（1時相当） 二次 式の使いかた（3時相当）
 三次 図の作りかた（3時相当） 四次 作問（随時）
 （計画は指導順に関係なく内容を示すだけ、扱いは必要に応じ相当時数指導）

本時の学習 式の使いかた—二次の1時—

- 主 眼
- 1 等号を使って式を順次簡略に書き進めていく事を理解させこれになれさせる。
 - 2 等号の意味を深めあわせて今後の式の変形や等式の基礎になる力を養う。

準 備 方形ボール紙

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習することをする	● 等号の意味の受けとりかたを観察する
2 等号を使って式をあらわしてみる	● 本時は主眼1について主に学習すること
● 各人でしてみる $7 \times 9 + 20, \quad 35 \div 7 - 4$ $3 \times 5 + 81 \div 9 + (23 + 7)$	● 単に式の各項の対応を順次考えていく問題に限定する
● 板書と比較してみる	● 結果だけを等号で結ばず、思考の経過がわかるよう等号で結んで式をかいでいさせる
3 よりむずかしい場合についてのやりかたをする	● 式の各項との対応に留意し、等号の使い方にあまりがないかについて比較させる
● $13 + 12 \times 9 \div 6$ についてしる	● 等号は両辺にあるものの内容が等しいこともあらわしていること
● 各人で問題をととき板書と比べる $12 + 8 \times 7 \times 2, \quad 13 + 12 \times 9 \div 2$	● 計算順序や対応をより意識する必要がある問題についておこなう
$49 - 35 \div 7 - 8$ $3 \times 5 + 4 \times 5 \rightarrow 5 \times (3 + 4)$	● 計算順序にしたがい対応を考えてかき表わさせる
4 まとめをする	● 途中で（ ）の用法や交換配合の法則など計算の規則を使って表わすよい場合に着目
	● 法則適用は図と結び具体的にわからせる

題 材 すまいと衛生

- 目 標
- 1 すまいのはたらきを知る。
 - 2 すまいの汚れやすい所を知つて簡単な消毒、殺虫の仕方を知り薬剤を使うことができる。
 - 3 大そうじの時期、方法、効果を知り、実践するようになる。
 - 4 つゆ時をより衛生的に過ごす工夫をする。
 - 5 涼しく住むために通風、日除け、必要な家具用具を知り、涼しく住む工夫をする。
 - 6 すまいを清潔にしようとする。

指導にあたって

- つゆから夏にかけての高温多湿な時期に、より健康に暮らすため、大そうじや殺虫消毒、涼しい住い方を中心として取り上げたこの題材は児童の科学的な住生活への関心を高めるものと思う。五学年では自分のへやのそうじや整えを主として住生活を取り上げてきたが、六学年では一歩進めて社会的な立場から住生活をながめさせたいと思う。
- 学習内容からみると衛生的な暮しをするための概念的な知識を得させる方向に学習が向きやすいので、できるだけ自分の家や学校の生活と結び、具体的なものにふれ実践的な学習をすることによって関心を高めよい住生活を営もうとする態度を養いたいと思う。

計 画	一 次 すまいのはたらき……………1時間
	二 次 衛生的なすまい方(消毒や殺虫のしかた)……………2時間
	三 次 大そうじ……………2時間
	四 次 涼しいすまい方……………1時間

本時の学習 二次の1時

主 眼 すまいを衛生的にするため消毒や殺虫の仕方を知る。

準 備 自分の家の不衛生と思われた場所の図、殺虫消毒剤の資料となるもの……児童
消毒殺虫剤数種、噴霧器、小バケツ、小黑板など……教師

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 すまいの汚れやすい所や手のとどこかない所について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の家の調査を中心にして話し合わせる。 ● 汚れたままにしておくと、どんな悪いことがあるか考えさせる。 ● 本時は特に消毒と殺虫にしほす。
2 汚れた所を衛生的にするにはどうしたらよいか話し合う	
3 資料によって殺虫や消毒の方法を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ● 各家庭に用いた殺虫剤、消毒剤の空きびんや袋、教師の用意した資料で調べた事をノートに書く用いる場所 注意 ● 一番わかりやすく書かれたもので他にもないものをえらんで班長は小黑板にまとめる。 ● 班長の発表をもとに、①場所目的によって種類がちがう ②期間をおいて常にまく ③からだに危険のないように使う事をまとめる。 ● 噴霧するもの、撒くもの、拭くものを一つずつえらび児童にやらせたり示したりする。
4 調べた事を発表する	
5 実際に噴霧したり、浴びたりしてやる	
6 時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内の不衛生な所を班に分かれて、きれいにするため身じたくを求奨しておく。

6の2 第2日 理科学習指導案

指導者 林 栄一

単 元 ばねのはたらき

- 目 標
- 1 ゴムひもや、つるまきばねののび方は、それにはたらく力の大小に関係することを、数量的にしらべて理解する。
 - 2 ばねばかりで、物の重さを測ったり、そのばねを手で引いてみたりして、物の重さを力の大小で考えることができる。
 - 3 ばねやゴムは、これをおし縮めたり、引きのばしたりすると、もとにもどろうとする力がはたらき、また急に力がかかる時、ばねやゴムを間に置くと力が弱められることを理解する。
 - 4 身のまわりには、ばねを利用した道具や機械のあることに気づく。
 - 5 実験の方法や結果を、分析的、数量的に考え、道具や機械を合理的に使えるようになる。

- 指 導 に あ た っ て
- 本単元は、児童の身のまわりにあることから出発し、ばねの性質やはたらきについて考え、力や重さと、のびの関係を理解させようというねらいをもっている。
 - ばねについてもつ児童の実感は、単にのびる、ちぢむに止まっているが、本単元では、これらを数量的に扱い、その間にある関係を、正確な測定によってつかませたい。
 - 単純な内容をもつ教材だけに、問題をもたせて、興味深く、意欲的に学習させたい。

計 画	一 次	ばねを利用してあるもの	1時
	二 次	ゴムひものび方	1時
	三 次	つるまきばねののび方	1時
	四 次	ばねのはたらき	1時

本時の学習 三次

主 眼 つるまきばねののび方を、ゴムひものび方と比較してしらべ、力とのびの関係をつかませ、数量的に処理する能力と態度を高める。

準 備 つるまきばね、おもり、スタンド、ものさし、ぜんまいばかり

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習のめあてをつかむ	●前時の学習を思いださせて本時のねらいをつかませる
2 実験の計画をたてる ●実験の方法 ●結果のまとめ方 ●結果の予想	●ばねののび方を数量的にしらべるため正確な測定の方法を考えさせる ●全長を測定するのではなくのびを測定することをわからせる ●結果をゴムひもの場合とくらべて予想させる
3 実験をして結果をまとめる	●正確に測定して結果を表とグラフにまとめさせる
4 結果をもとにして話し合う	●ばねののび方と力とは比例することをわからせる
5 次時の予告	

題 材 土の少年詩人（山本国語6の1）

- 目 標**
- 1 詩とは強い感動をあらわしたものであることがわかる。
 - 2 真実を自分のことばで卒直に表現することのよさがわかる。
 - 3 一連の詩から作者の生活やものの考え方をつかむことができる。
 - 4 作者のものの見方や考え方を自分とくらべる。
 - 5 詩を読んで感想や意見が書けたり話せたりする。
 - 6 生活行動時のよさがわかり、書けるようになる。

指 導 に あたって 題材から・土の少年詩人といわれている大関松三郎の生活を、その作品を中心にして書いた半伝記風な文章である。ここにあげられている四編の詩には自己の生活とひたむきな気持で対決している松三郎の姿がはっきりと見られ、これが力強い調子で書かれた解説文とよくからみあって、児童たちに大きな感銘を与えることと思う。

児童から・児童たちは今までに生活行動詩には何回も接しているが、松三郎の詩のような力強いものには初めてである。文字面の上に現われていることがらは一応理解できても、底に流れる松三郎の叫びをどれだけくみとれるかは疑問である。しかし文中の作者の喜びや悲しみいきどおりなどをもとにして感じとらせていきたい。

学習から・グループによる学習も行い、グループでよく話し合いながら松三郎の詩から自分たちの力で深い意味をくみとるという機会を多く持たせてやりたい。ことに練習の面では、文図の作成、班別の発表などに工夫させたい。

- 計 画**
- 1 読みの障害を除去し文の構想を調べる……………1時
 - 2 文図によって、文の構想を明らかにする……………1時
 - 3 四つの詩を中心として作者の生活や考え方を調べる……………4時
 - 4 作者についての感想文を書く……………1時

本時の学習 （3の3時）

主 眼 ・四つの詩を中心にして、作者の喜びや悲しみいきどおりとはどんなことであつたかを考える。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをはっきりつかむ ・四つの詩の中から作者の喜び悲しみいきどおりを感じとる ・解説文とも結んで、作者の生活感動がどんなところから発しているかを考えてみる ・次時への予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の喜びや悲しみいきどおりとは、どんなことであつたのかということをめあてとする ・どの詩にも流れている作者の強い生活感動をグループの発表をも取れ入れておさえていきたい ・児童たちには、作者の経験した農村の子どもの勤労生活は十分理解できないとしても、生産の喜びや文化的にめくまれていないかなしみなどは想像できると思う ・松三郎の他の作品などの提出も用意しておきたい ・次時では、もう一度改めて松三郎の詩作の態度や、作者の特長などを話し合いたい

特の1 第1日 生活学習指導案

指導者 伊藤 泰彦

題 材 バスにのって

- 目 標
- 1 積木を使って、ならべたり、くみあわせたりする経験をさせることによって、友だちと協力しながら、いろいろな物を作ることに興味を持たせる。
 - 2 乗物を利用するときの簡単なきまりをわからせたい。
 - 3 簡単なリズムあそびになれさせたい。
 - 4 性別をはっきりさせたい。

指 導 に
あ た っ て

- ・春の行楽シーズンを迎え、各児童それぞれに、バス、電車を利用する機会もふえ、春の修学旅行もあるので、児童の関心が非常に高まってきている。そこで、この単元を設定することにした。
- ・総合学習として取り扱う。学習能力が低いので、教師のわくにはまった学習が進められると思うが、できるだけこどものの中から生まれてるものを尊重して学習を進めたい。
- ・本学級は下表に示す通り、児童数10名の編成である。

児童一性	G・A	M・A	I・Q	障害その他
A	男 9:10	6:4	65	強度の言語障害(新入)
B	男 8:9	4:2	48	斜視、言語障害
C	男 8:6	4:0	47	
D	男 8:5	4:0	48	強度の言語障害
E	男 7:10	3:10	49	言語障害 (新入)
F	男 7:1	4:2	59	5月末に編入(新入)
G	女 11:0	4:11	45	言語障害
H	女 9:3			強度の難聴
I	女 8:0	3:0	48	言語障害
J	女 7:9	4:10	62	言語障害

計 画	一 次	積木あそび	5時
	二 次	電車、バス、家、花ばたけをつくる	6時
	三 次	チューリップのリズムあそび	4時
	四 次	バスにのって	6時(本時)

本時の学習 バスにのって

主 眼 五月の学習のまとめとして、今まで学習したことを総合しながら、みんなで仲良く、楽しく遊ぶ。

準 備 積木・チューリップの面・その他

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 集合 ・朝のあいさつをする	・みんな元氣よく「おはよう」がいえるように ・バス旅行の話し合いから、本時の学習の興味づけをしたい
2 積木遊びをする ・男子はバスをつくる ・女子は家と花ばたけをつくる	・性別に気付かせたい ・作業をしようとする子には特に留意したい
3 バスに乗って遊園地へ行く ・自動車ごっこをする ・身体表現をする	・きまりを守って、順序よくさせる
4 お花はたけでチューリップのリズムあそびをする	・お面をかぶって、男女別に向かいあわせる
5 まとめ	

特の3 第1日 生活学習(情操)指導案 指導者 野市 源朝

単 元 ねんど細工

- 目 標
- 1 思い切り自由な伸展を楽しむとともに、主抱強く精緻な細工にも取り組んでみる。
 - 2 ねんど細工は、各人の能力や性格に相当のひらきがあっても、一応全員が一つの流れに入りこめる。この組では、同じ空気にだれもがひたれることが主要なめあての一つである。
 - 3 形態の相違や色彩のおもしろみに気づかせる。

指 導 に あたって 本学級の成員は、主に性格的な差異から、落ち着いた雰囲気を作るのが困難であり、個々人は、集団の生活者として、学級をもち上げることを、長い時間に亘る場合はわずかしいので、同一の活動でも、それぞれの課程に各個を割り当てて従事する様配慮したい。

		G.A	M.A	I.Q			G.A	M.A	I.Q
男	A	13.8	5.2	38	女	A	14.5	7.4	51
	B	12.0	6.3	52		B	13.6	5.3	39
	C	12.7	5.3	42		C	13.5	7.0	52
	D	10.2	5.7	55		D	11.7	9.1	49
	E	11.6	.	不詳		E	11.0	7.0	64

- 計 画
- 一次 みんなでねったり、のぼしたりしたあと、簡単に型どりしてみる。
 - 二次 粘土に木の葉を貼りつけ、他の部分はけずりとらせる活動。
 - 三次 着色する。

本時の学習 二次～三次

主 眼 丹念に仕事を仕上げてみる。

準 備 粘土板・竹びら・ぞうきん・木の葉

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 作業の準備 用具を揃える 2 作業方法の説明 3 木の葉の貼りつけ 4 削りとり作業 5 作業の片づけ	<ul style="list-style-type: none"> • 自他の所有がはっきりする • 落着いて説明がきける • 葉の位置や押し工合の加減に留意 • 途中で投げださぬよう指導したい • 自分の持ち物は自分のところにかえたかどうかをたしかめる

特の4 第1日 生活(科学)学習指導案 **指導者 矢追 清典**

単 元 **ミせんたくミ**

目 標
 きわめて身近かな子どもら自身の衣生活について、科学的な知識や、経験を深め、生活をより合理化することへの興味と関心をひきながら

- 1 日常身につけている衣料品などについて、その種類と特徴を知り
- 2 より適切な洗剤を選んで、合理的なせんたくをする能力をのばし
- 3 衣服の清潔に留意する態度を養い、保健衛生についての関心を高める。

と、ともに実験や、その器具の取扱いを指導することから、慎重に、正しく観察し考える態度を培っていきたい。

指 導 に あたって
 ・ミせんたくミを実習指導の計画に組入れて、生活技術としてのねらいを中心に、上記のような目標をもって過去数年実習指導を続けてきたが、本年は

学年進行に伴なって、せんたく実習する子等も殆んど新しくなっている時期でもあるので、このクラスとしては少々無理か、との懸念もあったが、この子等なりの理解をもたせることも決して無意味ではあるまい、との考えから、新しい試みとして敢えて実験中心の本単元を設定したのであり、これによって一そう実習効果があがれば幸いであると願っている。

・中学部のクラスであるが学級編成上の都合で、小6男児2名がおり、男11名女4名、精神年齢では6才台から11才台までで、強度の難聴と弱視各1名がいるほか、ひとりの子がワンマン的存在として学級を生耳っているといった状態。学習そのものが新しい試みであるとともに、クラスの子等との接触が極く浅いので、まだ適当なグループの編成ができないのであるが、できるだけ個々の子等が実験などにも参加できるよう、少なくとも、3～4グループにして学習を進め、この子等なりの自主性を伸ばすよう心がけたい。

・理論的にはしりすぎたり、能力から逸脱したりすることのないよう、あくまで、この子等中心、実験中心、常にこの子等の生活との結びつきを考え、実習との関連を失わぬよう十分留意して学習を進めたい。

計 画
 一 次 いろいろのせっけん

二 次 いろいろな布地

三 次 しみぬき

四 次 よいせんたく

本時の学習(一次の2時)

主 眼
 器具の取扱いに気をつけながら、せっけんの泡立ちのようすを調べ、油のよれに対するせっけんの効用をしっかりとおさえたい。

準 備
 実験器具(各グループに)洗剤、テレピン油、タオル等

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 手についた油をとってみる ○ せっけんの泡立ちを調べる ○ 油が乳濁するようすを調べる ○ 器物や布についた油をとってみる ○ まとめ ○ あとしまつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水でとれないことを確認させる ○ 本時学習内容を知らせる ○ 泡立ちのよい場合の条件をかたんにやさたい……水の種類にはこだわらないで ○ 真水の場合とくらべながら…… ○ 水の温度にも関係しないことを確認する ○ 原理的なことがらにはこだわらないで ○ 全員が実際に洗ってみる ○ 水洗を確認する ○ 真水とせっけん水の比較 ○ せっけんの効用の確認 ○ 次時の予告 (余裕あれば煤のついた布も取扱いたい)

特の2 第2日

生活学習指導案

指導者 山本 勝子

単 元 じょうぶな からだ

- 目 標
- 1 自分の身体について関心を持たせ、日常生活をより健康的にする態度を養いたい。
 - 2 くらべっこをすることによって、細かい物の測方やたしかめ方を身につけさせたい。

指 導 に あたって

- この学級の児童は、衛生的な面に割合無関心である。4月以来の身体検査や身体測定のととのめの意味で、衛生習慣を身につけさせ、自分で自分の身体に注意させるように、この単元を設定した。
- 学習としては、言語、数、家庭、科学、情操、健康生活など非常に巾が広く総合的に取扱ってきた。今後も折にふれ習慣づくように押さえていきたい。
- 児童は、昨年と同級の9名に、1組から転入の1名と、4月新入の4名の合計14名である。生活年令を主体として編成されたものの、なおかつ満8才から11才2か月の差があり、I.Qは検査不能から78までで、性格的に極めて問題の多い児童も二、三おり、学級としてはまとまりにくい。それで、まず2～4人のグループで常にみんなで、なかよく、おしっこをするを主眼にして歩んでいる。

計 画	一 次 たのしい きゅうしょく.....	4時
	二 次 きれいな からだ.....	3時
	三 次 せいくらべ.....	3時
	四 次 おもさくらべ.....	3時
	五 次 おいしゃさま.....	3時

本時の学習 三次の2時

- 主 眼
- 1 お友だちと背をくらべることにより「一番大きい」「一番小さい」とか「どちらから何番目」という順番をはっきりさせる。
 - 2 正しい姿勢について考え、姿勢を正しくすることに心がけさせたい。
 - 3 棒グラフの見方に、なれさせる。

準 備 ふすま用紙、色テープ、セロテープ、空箱、数カード、紅白球

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 朝のあいさつ 2 話し合い • 昨年の背の高さを見て話し合 う 3 背をはかる • はかり方を考える • 実測する 4 高さくらべ • 大きい順にテープを並べかえ る • 大きい順に並んでみる 5 ものまねごっこ • カードと同じ番号の者が、も のまねをする 6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 服装や顔色をしらべる • 導入の段階として軽く扱う • 正しい姿勢や、正しい測り方の要領をわからせ る • 一番大きい、どちらから何番目、をはっきりさ せる • 初歩の棒グラフとしてふれる • 発音指導を考慮して行いたい

特の4 第2日 生活(言語)学習指導案 指導者 喜多 富一

題材 日記

- 目標
- 1 日常の生活経験を、まとまった文章で表現できる能力をつけさせたい。
 - 2 事柄にあわせて、その時の心持ちを書いたり、要点をまとめたりして、筋の通った文が書けるようにしたい。
 - 3 辞書のくり方を理解させ、これを利用して日記文が書けるようにしたい。
 - 4 文章記号が正しく使えるようにしたい。

指導にあたって

- 日記が書けるようになるということは、精薄児教育では極めて大切なことであり、特に高学年においては、言語生活学習の中で日記の占める役割は非常に大きい。児童生徒には、毎日日記をつけさせているが、単調な生活と表現方法のまずさから変化のない日記に終わってしまうことが多いので、現在の児童生徒の程度に応じて、更に一步前進した表現能力をつけさせたいと思って特にこの題材をとりあげた。
- 日記の指導は、単元学習として一定期間内に学習し終るのではなく、継続的に指導していきたいと考えている。児童生徒には毎日日記を提出させて個別指導をしているが、ことばのきまりや誤字、表現方法等で、一斉指導の必要があると考えられたときは、機会をみてこれを学習している。
- 本学級は小学校6年から中学校3年までの児童生徒15名の編成である。言語生活学習において、読む・聞く・話す能力は相当高まってきたが、書く能力はまだ低い。最近辞書のくり方が幾分わかってきた関係で、日記にも漢字の使用が目立つようになってきた。

計画

- イ 日記の形式とつけ方
ロ 日記のあやまり
ハ 辞書のくり方
ニ 筋の通った書き方

(これは、児童生徒の日記を見た結果、問題があった場合適宜とりあげているので、配時や項目の順序にはとられない。)

本時の学習 友だちの日記

- 主眼 児童生徒の日記の中からいくつかのものをとりあげ、文字やことばのあやまりをみつめてこれを訂正したり、すっきりとした表現のし方や正しいことばの使い方などについて考える。

準備 日記、学習国語新辞典 プリント

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 日記文を読む	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆっくり、正確に読むように
2 諸記号やことばの使い方について考える	<ul style="list-style-type: none"> ● どんなことが書かれていたかをつかませる ● 方言や発音不明瞭からくることばのあやまりを正す
3 文中、漢字でかけることばを辞書をしらべて書く	<ul style="list-style-type: none"> ● 文中漢字で書けることばを探す ● 辞書はできるだけ速くくり、正確に書写するように
4 スムーズな表現や簡潔な表現方法について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな表現を考えてみる ● 考えたことばの中から適当なものを拾う
5 訂正された文を読んでみる	<ul style="list-style-type: none"> ● もとの文章と比較してみて、どうであるかを話し合う。
6 まとめ	

予 告

第九回 小学校 幼稚園 教育研究協議会案内

今年も教育の現場に山積する各教科各部門の問題をとりあげて、全県下の教育者のみなさんと話し合い、さらに実践への道を深めたいと念願しております。日頃の御研究、実践の歩みを温めてぜひ御参加くださるよう御案内致します。

期 日 昭和三十五年十月七日（金）八日（土）

会 場 金沢大学教育学部付属小学校

会 員 小学校、幼稚園教職員および一般希望者

研究発表 各部会で会員諸氏の研究発表を期待しています

会 費 無 料

主 催 金沢大学教育学部・石川県教育委員会

協 議 題 目

算

数

一、割合の授業をどのように進めたらよいか
低 乗法九九に入るまでの指導
中 AはBの $\frac{3}{2}$ の指導
高 比の第三用法の指導

二、図形指導の困難点はどこにあるか
“はこづくり”の指導
“点対称”の指導

生活文の指導過程について
——書くこと、読むことを中心として——

低学年の学習活動のすすめ方
一、効果的な授業のすすめ方
二、実習（物理）

一、レコードによる鑑賞指導のすすめ方
二 ハーモニカを中心とした器楽指導

一、男教師でもできるリズム運動の指導法
二、女教師でもできるボール運動の段階的指導法
三、徒手体操の実技指導講習

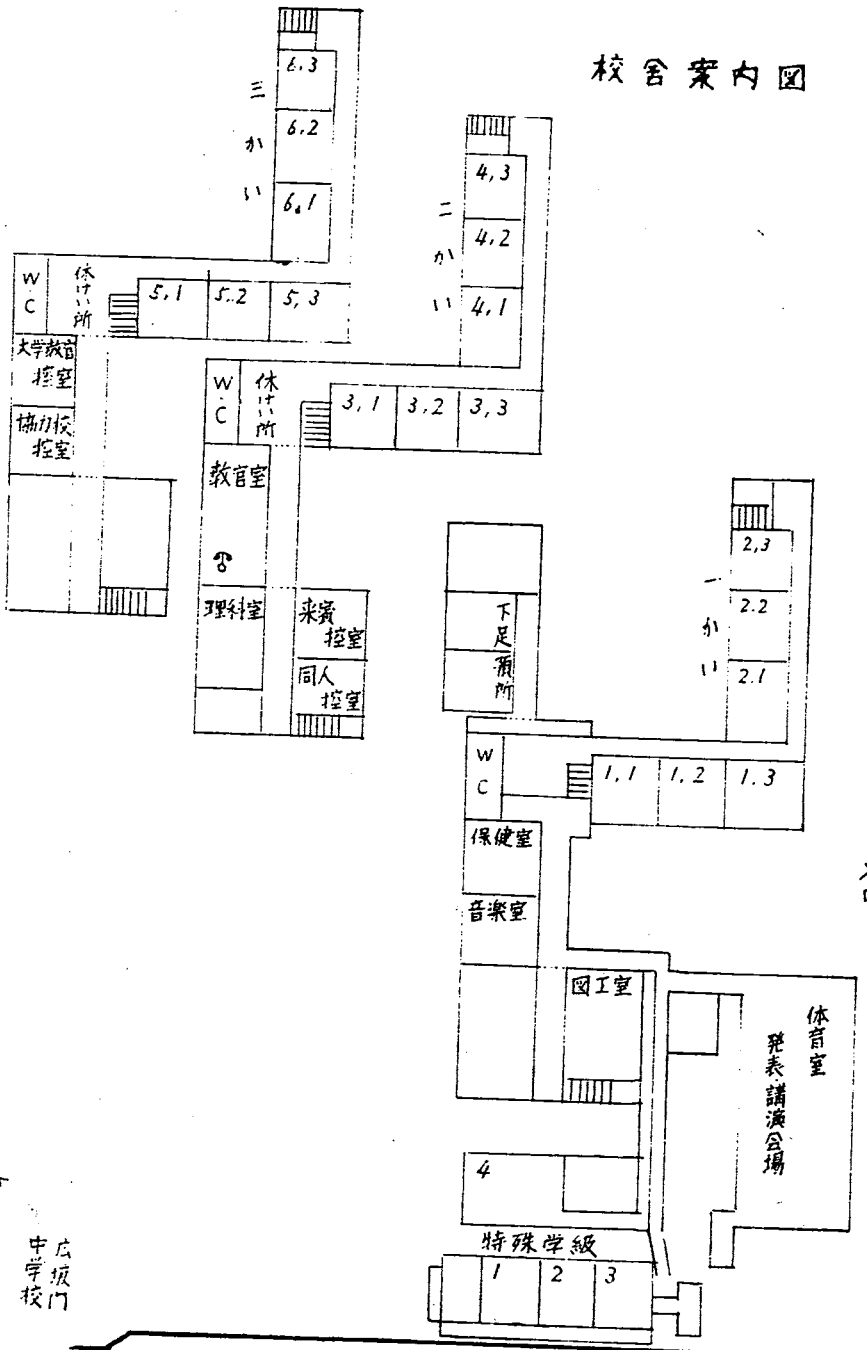
四、その他の運動の教材解説指導
被服・食物に関する家庭科指導のあり方と教材研究

『道徳の時間の反省』——指導法の諸問題——
一、精神薄弱児の職業指導について
二、精神薄弱児の情操生活学習（音楽・図工）につ

いて

幼稚園教育指導書絵画製作編を実践して

校舎案内図



広坂
中学校
校門

予 告

幼稚園の研究會

私たちは幼児の造形活動の問題と取りくんで参りました
が、このたび左記の主題でささやかな研究会を開き、日頃
の考えと歩みの一端を発表し先生方の御批判を仰ぎたいと
思います。

期 日 昭和三十五年六月三十日(木)

会 場 金沢大学教育学部付属幼稚園

研究主題 幼児の造形活動をどのようにするか
——主として製作活動について——

日 程

9.00	自由あそび
9.25	製作を中心とした保育
10.30	発表(吉田)
10.40	発表(岡田)
11.20	昼 食
12.00	発表(南)
1.00	座 談 会
3.00	

1 研究発表

製作活動の計画
製作活動の実践
幼児の粘土表現

教諭 教諭 教諭
南岡吉 田田 外喜貞
勝治

2 座 談 会

主催者側

金沢大学助教授 増松永 良次丸
金大付小教諭 池田島 千代子
高島 正義

会 費 百円 (“絵画製作の年間計画” および日程を含む)

予 告

本校に特殊学級を設置しましてからちょうど十カ年、ささやかながら精神薄弱児の指導についていろいろな問題と取組んで参りましたが、たまたま、本年度文部省から特殊教育の研究指定をうけることになりましたので、この機会に私たちの研究を教育課程の編成を中心とめて左記のように出版することにしました。御一覽の上諸先生方の御批判をいただければ幸いと存じます。

書 名 “精神薄弱児の指導”

——指導計画立案から指導要録の記載まで——

内 容

- 1 精神薄弱児指導の基本的方針
- 2 最大限の指導効果ねらう能力段階表
- 3 個々の児童に適應する指導計画の立案
- 4 指導計画の実際例
- 5 指導の実際例
- 6 精神薄弱児の指導要録

出版の時期 本年十月中旬の予定